

兵庫のゆたかさ指標から見る過去 20 年の県民意識の動き

趣 旨

- ・ 2001 年に策定した「21 世紀兵庫長期ビジョン」の推進に当たっては、統計や事業量では測りきれない生活の質や豊かさを明らかにするための主観指標（県民意識調査による指標）を設定し、ビジョンの実現状況の評価を行ってきた。
- ・ 生活の質や豊かさに関する県民意識の変容を知ることは、兵庫県の新しい将来ビジョンの検討にも欠かせない。そこで、現行ビジョン策定後の約 20 年間の県民意識調査の結果を改めて俯瞰し、県民意識の変化や地域ごとの傾向の分析を試みた。
- ・ なお、この間に生じた調査項目の加除修正をできる限り考慮に入れているが、新ビジョン検討の議論の糸口として活用することに主眼を置き、ある程度割り切って分析を行っているので、厳密な有意性を保証するものではない。

県民意識調査の概要

- (1) 対 象 者 : 県内に居住する満 20 歳以上の男女個人
(毎年 5,000 人・各市町の住民基本台帳をもとに無作為抽出)
- (2) 標本抽出 : 県民局・県民センターの地域 (10 地域) ごとに 500 人を市町別・男女別・年齢 10 歳階級別の母集団構成比に応じて抽出
- (3) 調査期間 : 2002～2020 年度 (年 1 回・19 年間)
- (4) 調査項目 : 別表の 55 項目
※調査項目の変更は最小限にすることを基本としながらも、21 世紀兵庫長期ビジョンの改定や社会情勢に合わせて、追加・削除・文言修正を加えている。
※回答は 5 択 (例: 1 そう思わない 2 あまりそう思わない 3 どちらとも言えない 4 まあそう思う 5 そう思う)。以下の分析では結果を 1～5 点の得点に換算。5 択に均等に回答があった場合の平均点が 3 点。3 点より高いか低いかが評価の一つの目安になる。

構 成

- ◆ 概観 P. 4
- ◆ 将来像別の経年分析 P. 6
- ◆ 地域別レーダーチャート P. 25
- ◆ まとめ (県民意識調査から抽出した新ビジョン検討の主な切り口) P. 26

【別冊：参考資料】※県 HP に掲載

	資料名	概 要
1	調査票	・ 県民に送付している様式
2	経年グラフ ① 全県 ② 地域別 ③ 男女別 ④ 世代別	・ 各設問の年度ごとの平均点を経年で集計 ・ 2002～2020 年度のデータを対象としているが、途中で新設した設問や一時的に廃止していた設問も含めて分析 (直近で廃止している設問は除く。) ・ 文言修正があった場合も、ある程度同一の設問として許容し、評価の時点で修正内容を考慮して分析
3	地図グラフ	・ 各設問の直近 3 年 (2018～2020 年度) のデータを抽出し、地域別に平均点を集計 ・ 地域の差を分かりやすくするため、色のグラデーションの設定を設問毎に設定
4	質問変遷一覧	・ 各設問の文言の変遷を記載

【県民意識調査の設問項目】

	4つの社会像等	12の将来像	設問		
1	全体評価	総合的生活満足度	あなたは、全体として、将来の生活に不安を感じますか。		
2			あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいですか。		
3			あなたは、全体として、今の生活に満足していますか。		
4	創造的市民社会	人と人のつながりで自立と安心を育む	あなたには、頼りになる知り合いが近所にいますか。		
5			住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがありますか。		
6			住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると感じますか。		
7			住んでいる地域では、住民による登下校時の見守り、夜間パトロールや街灯整備などの安全安心を守る取組が行われていると感じますか。		
8			あなたは、家族とのコミュニケーションがとれていますか。電話などを含み、家族との同居・別居を問いません。		
9			不当な差別がない社会だと感じますか。		
10			住んでいる地域は、高齢者にも暮らしやすいと感じますか。		
11			住んでいる地域は、障害のある人にも暮らしやすいと感じますか。		
12			兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する	次代を支え挑戦する人を創る	あなたは、心身ともに健康であると感じますか。
13					あなたには、かかりつけの医師がいますか。
14	お住まいの市・町では、芸術文化に接する機会があると感じますか。				
15	あなたは、ボランティアなどで社会のために活動していますか、またはしてみたいですか。				
16	あなたには、目的を持って学んでいるものがありますか。				
17	住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると感じますか。				
18	しごとと活性社会	未来を拓く産業の力を高める	若者が希望を持てる社会だと感じますか。		
19			住んでいる地域の子どもは、伸び伸びと育っていると感じますか。		
20			住んでいる地域では、子育てがしやすいと感じますか。		
21			お住まいの市・町には、優れた製品・技術・ブランド力をもった企業があることを知っていますか。		
22	地域と共に持続する産業を育む	地域と共に持続する産業を育む	お住まいの市・町の企業には活気が感じられると感じますか。		
23			商売、事業を新たに始めやすい環境になっていると感じますか。		
24			あなたは、地元や県内でとれた農林水産物を買っていますか。		
25			お住まいの市・町では、観光などの訪問客が増えていると感じますか。		
26			地元や県内でとれた農林水産物は安心だと感じますか。		
27			地元や県内の農林水産業に、活気が感じられると感じますか。		
28			お住まいの市・町の駅前や商店街に、活気が感じられると感じますか。		
29			お住まいの市・町では、生活の不便さを補うサービス産業が増えていると感じますか。		
30			生きがいにあふれたしごとを創る	生きがいにあふれたしごとを創る	あなたは、自分のしごとにやりがいを感じますか。
31					あなたは、しごとと自分の生活の両立ができていますか。
32	自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと感じますか。				
33	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると感じますか。				
34	環境優先社会	人と自然が共生する地域を創る	お住まいの市・町の自然環境は守られていると感じますか。		
35			お住まいの市・町では、自然の生き物動物・植物とふれあう機会があると感じますか。		
36			あなたは、山林や川、海などの自然環境を守るための取組に参加していますか、または参加したいと感じますか。		
37		低炭素で資源を生かす先進地を創る	低炭素で資源を生かす先進地を創る	あなたは、ごみの分別やリサイクルに取り組んでいますか。	
38				あなたは、日頃から節電に取り組んでいますか。	
39				あなたは、製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいきますか。	
40				あなたは、太陽光発電など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加していますか、または参加したいと感じますか。	
41		災害に強い安全安心な基盤を整える	災害に強い安全安心な基盤を整える	あなたは、災害時の避難所と避難方法を知っていますか。	
42				住んでいる地域の、災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると感じますか。	
43				あなたは、家庭で災害に対する自主的な備えをしていますか。	
44	あなたは、住んでいる地域で災害に備えた話し合いや訓練に参加していますか。				
45	多彩な交流社会	地域の交流・持続を支える基盤を整える	住んでいる地域は、買い物や通院に便利であると感じますか。		
46			住んでいる地域のまち並みはきれいだと感じますか。		
47			お住まいの市・町は、県内のどこへでも便利に移動できますか。		
48			お住まいの市・町の公共交通は便利であると感じますか。		
49		個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	あなたは、住んでいる地域に愛着や誇りを感じますか。	
50				あなたは、住んでいる地域のことに関心がありますか。	
51				あなたは、住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加していますか、または参加したいと感じますか。	
52		世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」風景や産物、文化などがありますか。	
53				あなたは、外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると感じますか。	
54				あなたは、海外に出かけたり、海外での生活を経験したりしてみたいですか。	
55			お住まいの市・町は、外国人にも住みやすくなっていると感じますか。		

I 総合満足度と4つの社会像の概観

評価 生活満足度、産業・子育て環境等の意識が改善

環境意識は伸び悩むも高水準を維持

総合満足度：各社会像の改善幅を上回る0.64ポイントの改善。特に「全体として、今の生活に満足している」は1.09ポイントの増加

創造的市民社会：得点水準が比較的高いなかで、0.25ポイントと全体から見ると平均的な改善。治安のよさや子育てのしやすさに関する得点が改善に寄与

しごとと活性化社会：得点水準は高くないものの、0.36ポイントと比較的大きな改善。企業の活力や就職・転職のしやすさなど、**産業・雇用に関する意識の改善**が寄与

環境優先社会：改善幅0.07ポイントと小さいものの、高水準を維持。特に低炭素社会に関する意識は将来像別の直近で3.63と最も高得点。一方で自然とふれあう機会に関する得点が低下

多彩な交流社会：得点水準が比較的高いなかで、0.24ポイントと全体から見ると平均的な改善。県内の移動の利便性や地域活動への参画に関する得点が改善

※「初年度得点」は各設問を設定した初年度の値。社会像・将来像ごとの得点はそのカテゴリーの設問の得点の単純な平均値としたため、「初年度得点」は異なる年度の得点の平均値になる。

社会像（下段は12の将来像）	初年度 得点	2020年度 得点（順位）	増減（順位）		
00 総合満足度	2.87	3.51	-	0.64	-
01 創造的市民社会	3.15	3.39	1位	0.25	2位
01 人と人のつながりで自立と安心を育む	3.31	3.52		0.21	
02 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する	3.15	3.32		0.17	
03 次代を支え挑戦する人を創る	2.81	3.23		0.42	
02 しごとと活性社会	2.63	2.98	4位	0.36	1位
04 未来を拓く産業の力を高める	2.34	2.75		0.42	
05 地域と共に持続する産業を育む	2.64	3.05		0.40	
06 生きがいにあふれたしごとを創る	2.82	3.06	0.24		
03 環境優先社会	3.20	3.27	3位	0.07	4位
07 人と自然が共生する地域を創る	2.83	3.07		0.24	
08 低炭素で資源を生かす先進地を創る	3.81	3.63		▲0.18	
09 災害に強い安全安心な基盤を整える	2.88	3.07	0.19		
04 多彩な交流社会	3.10	3.34	2位	0.24	3位
10 地域の交流・持続を支える基盤を整える	3.34	3.52		0.18	
11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	3.22	3.49		0.26	
12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	2.62	2.90		0.27	

【参考 各問の増減に対する基本的データ】

最大値：0.86 最小値：▲0.76 平均値：0.24 中央値：0.24

II 12の将来像ごとの特徴

将来像（下段は主な設問）		初年度 得点	2020年度 得点（順位）	増減（順位）	
—	00 総合満足度	2.87	3.51	—	0.64
	全体として、今の生活に満足している	2.77	3.86	—	1.09
創造的 市民社会	01 人と人のつながりで自立と安心を育む	3.31	3.52	3位	0.21
	住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う	3.18	4.05	—	0.86
	02 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する	3.15	3.32	5位	0.17
	ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたい	3.16	2.96	—	▲0.19
ついに 活性社会	03 次代を支え挑戦する人を創る	2.81	3.23	6位	0.42
	住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う	2.73	3.53	—	0.80
	若者が希望を持てる社会だと思ふ	2.19	2.52	—	0.33
ついに 活性社会	04 未来を拓く産業の力を高める	2.34	2.75	12位	0.42
	企業に活気が感じられる	2.49	2.90	—	0.41
	05 地域と共に持続する産業を育む	2.64	3.05	10位	0.40
	地元や県内の農林水産業に、活気が感じられると思う	2.10	2.83	—	0.72
環境 優先社会	06 生きがいにあふれたしごとを創る	2.82	3.06	9位	0.24
	自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと思ふ	1.74	2.41	—	0.67
	07 人と自然が共生する地域を創る	2.83	3.07	7位	0.24
	自然環境を守る取組に参加している、参加したいと思う	2.02	2.84	—	0.82
	自然の生き物動物・植物とふれあう機会があると思ふ	3.74	2.98	—	▲0.76
環境 優先社会	08 低炭素で資源を生かす先進地を創る	3.81	3.63	1位	▲0.18
	太陽光発電など「再エネ」を利用する取組に参加してる、参加したいと思う	3.21	2.61	—	▲0.59
	09 災害に強い安全安心な基盤を整える	2.88	3.07	8位	0.19
	家庭で災害に対する自主的な備えをしている	2.35	3.06	—	0.71
多彩な 交流社会	10 地域の交流・持続を支える基盤を整える	3.34	3.52	2位	0.18
	お住まいの市・町は、県内のどこへでも便利に移動できる	3.14	3.56	—	0.41
	11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	3.22	3.49	4位	0.26
	地域を良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している、参加したいと思う	2.60	2.98	—	0.39
多彩な 交流社会	12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	2.62	2.90	11位	0.27
	外国人を見かけたり、接したりする機会が増えていると思ふ	2.09	2.83	—	0.74

III 設問ごとの増減・得点のベスト・ワースト5

○増減のベスト・ワースト5

	設問	初年度	2020年度	増減	増減の順位
上位	全体として、今の生活に満足している	2.77	3.86	1.09	1位 00 総合満足度
	住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う	3.18	4.05	0.86	2位 01 創造的市民社会
	山林や川、海などの自然環境を守るための取組に参加している、または参加したいと思う	2.02	2.84	0.82	3位 03 環境優先社会
	住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う	2.73	3.53	0.80	4位 01 創造的市民社会
	外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思ふ	2.09	2.83	0.74	5位 04 多彩な交流社会
下位	日頃から節電に取り組んでいる	4.13	3.96	▲0.17	51位 03 環境優先社会
	ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたい	3.16	2.96	▲0.19	52位 01 創造的市民社会
	住んでいる地域の、災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う	3.36	3.14	▲0.22	53位 03 環境優先社会
	太陽光発電など「再エネ」を利用する取組に参加している、または参加したいと思う	3.21	2.61	▲0.59	54位 03 環境優先社会
	自然の生き物動物・植物とふれあう機会があると思ふ	3.74	2.98	▲0.76	55位 03 環境優先社会

○2020年度 得点のベスト・ワースト5

	設問	初年度	2020年度	増減	2020得点の順位
上位	ごみの分別やリサイクルに取り組んでいますか。	4.39	4.38	▲0.00	1位 03 環境優先社会
	家族とのコミュニケーションがとれていますか。電話などを含み、家族との同居・別居を問いません。	4.27	4.25	▲0.02	2位 01 創造的市民社会
	住んでいる地域にこれからも住み続けたいですか。	3.81	4.10	0.29	3位 00 総合満足度
	住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思いませんか。	3.18	4.05	0.86	4位 01 創造的市民社会
	日頃から節電に取り組んでいますか。	4.13	3.96	▲0.17	5位 03 環境優先社会
下位	若者が希望を持てる社会だと思いませんか。	2.19	2.52	0.33	51位 01 創造的市民社会
	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると思いませんか。	2.29	2.49	0.20	52位 02 しごと活性社会
	商売、事業を新たに始めやすい環境か	2.23	2.46	0.23	53位 02 しごと活性社会
	自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと思いませんか。	1.74	2.41	0.67	54位 02 しごと活性社会
	住んでいる地域で災害に備えた話し合いや訓練に参加していますか。	2.07	2.36	0.29	55位 03 環境優先社会

I 創造的市民社会

社会情勢 人口減少・高齢化、暮らしや地域に変革の兆し

■ 2001～2005

トライやるウィークをはじめ、子どもたちの豊かな心を育む「兵庫型体験教育」が定着
未婚化・晩婚化が進行 合計特殊出生率が1.26と過去最低

■ 2006～2010

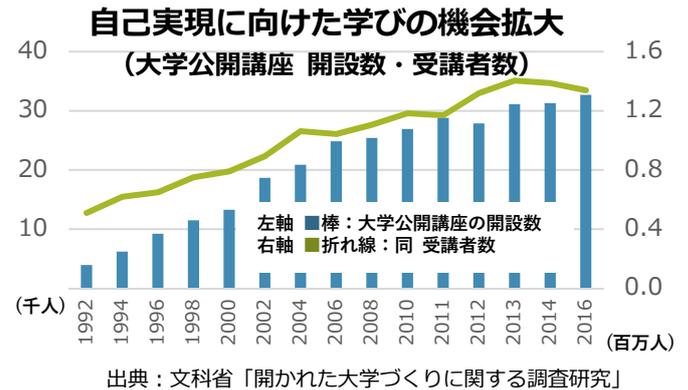
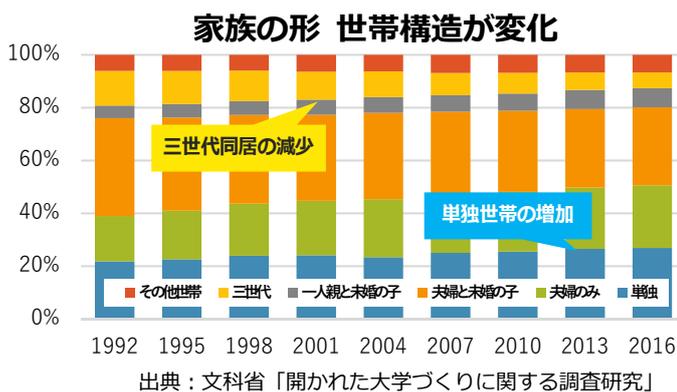
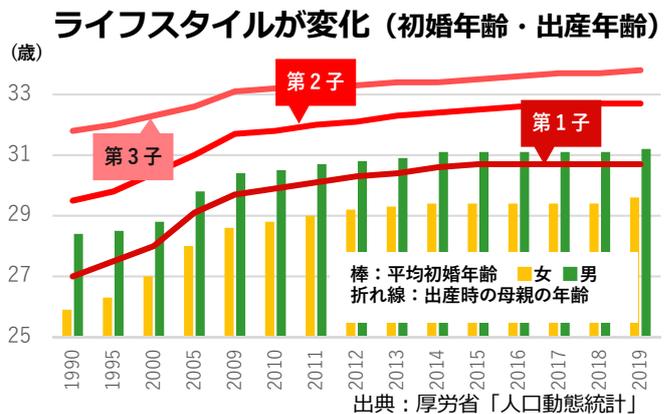
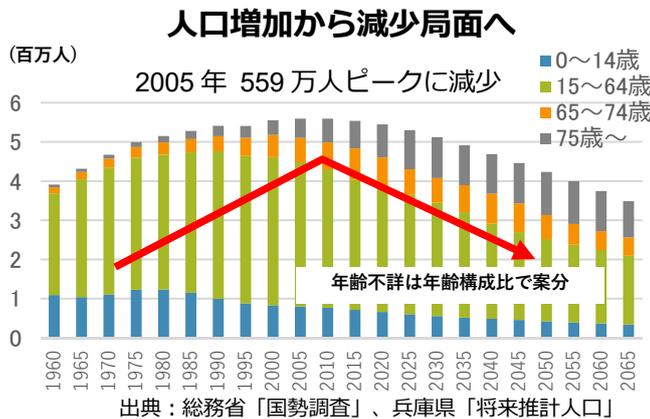
日本の人口が1億2,808万人をピークに減少
世界に先駆けて超高齢社会に突入 65歳以上が21%超
小規模集落が年々増加 コミュニティの弱体化 お祭りや伝統文化の衰退が進行
地域おこし協力隊が創設 地域課題の解決に尽力
バリアフリー法改正 ユニバーサルデザインが浸透

■ 2011～2015

東日本大震災 多くのボランティアが社会で活躍
日本創生会議「消滅可能性都市」が社会問題に
地方創生が活発化 東京一極集中の是正 子育て支援など
様々な住民団体が参画する「小規模多機能自治」が拡大

■ 2016～2020

東京五輪に向け地域の競技・生涯スポーツが活性化
都市と田舎の二地域居住 自然に親しむ新たな暮らしの兆し
自己実現に向けた社会人の学び直しが広がる
コロナ禍 家族の絆や人のつながりを考え直す機会に
オンラインでの新たなコミュニケーションの形も



県政 20 年のトピックス

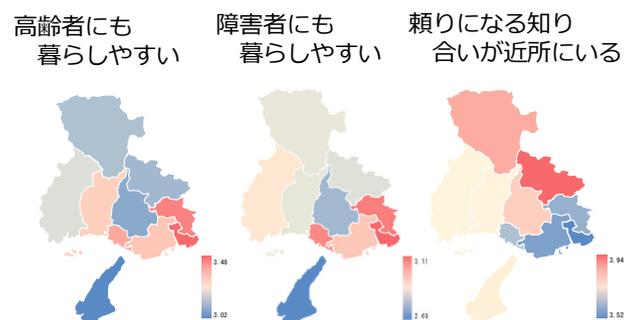
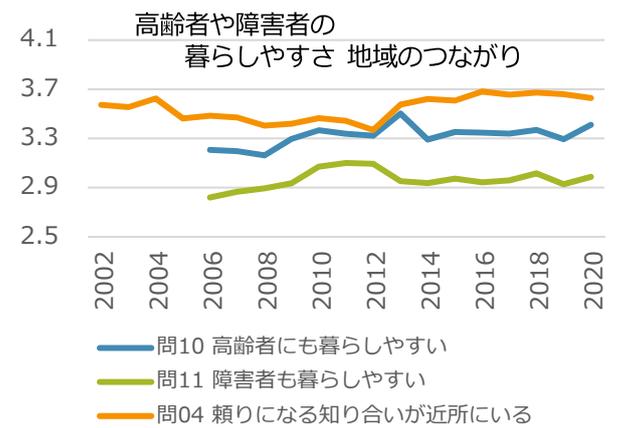
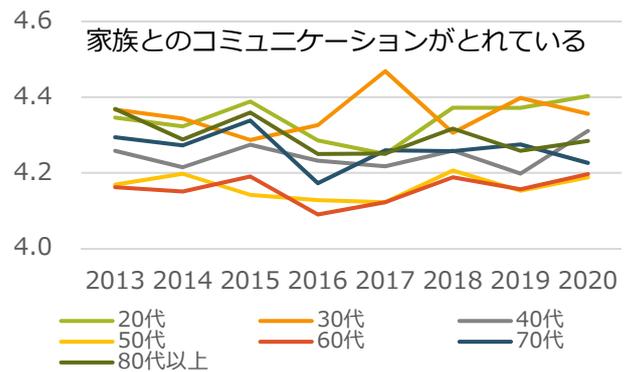
- 2001～2005 ボランティアプラザ開設、男女共同参画条例制定、県立美術館「芸術の館」開館、県立武道館開館、参画協働推進条例制定、県立粒子線医療センター開設、兵庫県立大学誕生、Eバー-カ社会づくり指針策定、県立芸術文化センター開設
- 2006～2010 県民交流広場本格開始、ひょうご出会いがっ-センター開設、のじぎく兵庫国体開催、県立考古博物館開館、行政構造改革推進条例制定、豊岡病院を基地とするドクターヘリ運航開始、関西広域連合設立、全市町に消費生活センター設置
- 2011～2015 健康づくり推進条例制定、第1回神戸マラソン開催、受動喫煙防止条例制定、地域安全 SOS キャッチ電話相談開設、横尾忠則現代美術館開館、自転車の安全利用促進条例施行、客引き防止条例施行、公立高校学区再編
- 2016～2020 カムバックひょうご東京センター開設、県立考古博物館加西分館オープン、県立粒子線医療センター附属「神戸陽子線センター」開設、県立丹波医療センター開院、新長田合同庁舎供用開始、県立美術館「Ando Gallery」開館

- ・核家族化や個人の価値観の多様化など、家庭や暮らしの単位がより「個化」するなか、多くの県民が「家族とのコミュニケーションがとれている」と評価している。精神面でのつながりの維持と、物理的な面での支えをいかにカバーできるか、新たな家族や地域の形を考える必要がある。
- ・高齢者、障害者の暮らしやすさは都市部が高く、地方部が低い傾向があり、この地域差をどう埋めていくかが今後の課題である。また、「子育てのしやすさ」は都市部が高く、「子どもが伸び伸びと育っている」は地方部が高い評価。いずれの評価も高い地域をつくる必要がある。
- ・目的を持った学びでも、都市部と地方部の格差が表れた。「学び」の機会の充実は、変化の激しい時代に対応するためだけでなく、地域の魅力を高めるためにも必要な取組と考えられる。

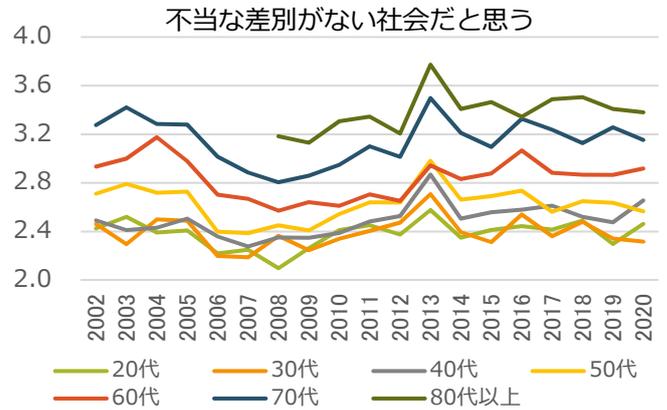
将来像 1 人と人のつながりで自立と安心を育む

意識 保たれる家族や地域のつながりの一方 高齢者・障害者の暮らしに地域差

- ・「家族間でのコミュニケーションがとれている」は、4.21~4.28 と一貫して高い水準を維持している。
- ・年代別の点数は、子育て世代である 20 代、30 代が相対的に高いが、40 代以上の年代も総じて高い。この設問は同居・別居を含めて聞いており、頻度や時間は別として、世帯が分かれてもなお、家族間である程度のコミュニケーションが取れている状況が窺われる。平日 1 日あたりの家族と話をする時間を問う設問でも、約 120~140 分と参考値ながら高い値が表れている。
- ・「頼りになる知り合いが近所にいる」は、家族の設問には及ばないものの、3.37~3.68 と比較的高い水準にある。地域別では、但馬・丹波などの地方部が高い傾向にあり、都市部における地域のつながりの希薄さが表れている。
- ・一方で、「高齢者の暮らしやすさ」は、都市部の方が高い。高齢になるにつれ、身体的機能の低下により広域な生活圏で暮らすことが難しくなることから、公共交通が整った都市部の便利さが魅力につながる。地方部での生活利便性の確保は大きな課題である。
- ・また「障害者の暮らしやすさ」についても、同様に都市部が高い傾向にある。身体をサポートする技術を積極的に活用するとともに、地域のつながりや支え合いなどソフト面でもユニバーサルな社会づくりを進め、地域差を埋めていかなければならない。



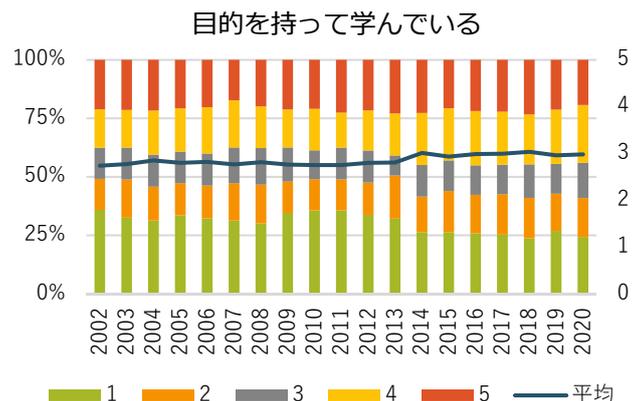
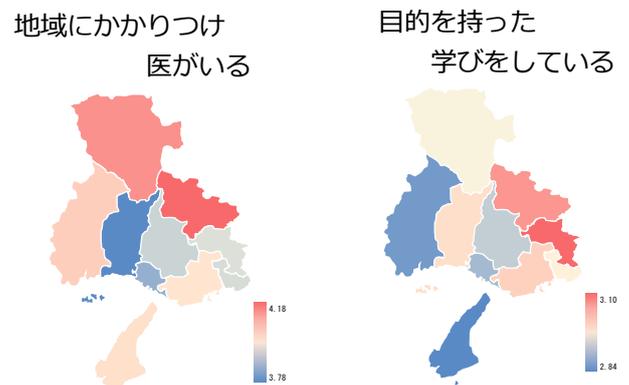
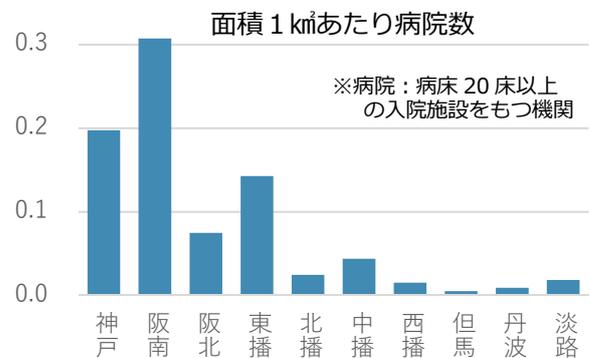
- ・「不当な差別がない社会だと思う」では、若い世代ほど差別があると答えている。「若者が希望を持てる社会である」（将来像3）における若い世代の低評価と通じるものがある。若者の自由な発想や活動が生かされにくい社会の一面を窺わせる。新しい価値観や変化に寛容な社会をどう創っていくかが重要な課題である。



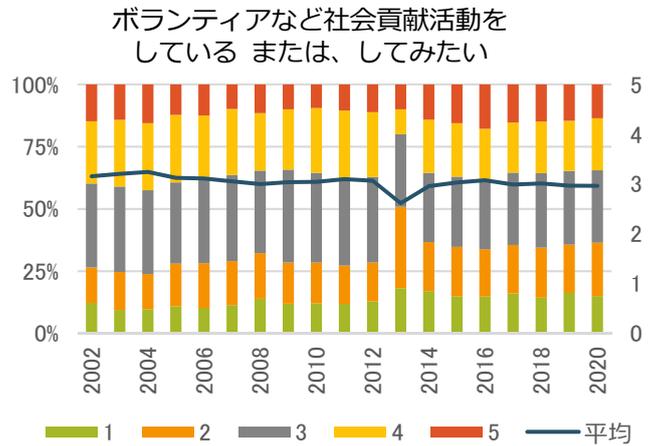
将来像2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する

意識 健康生活を支える診療機能の地域差 学びへの意欲 社会的活動の浸透と今後への課題

- ・「地域にかかりつけ医がいる」は、都市部に比べて地方部が高い。地方部では医療面だけでなく地域のつながりを支える拠点として、まちの診療機関が機能していると評価できる。
- ・一方、面積に対する一定規模の病院数を比較すると、都市部に比べて地方部が少なく、入院可能な医療施設が相対的に少ないことを示している。地方部での医療充実を図っていく際には、まちの身近な診療機能の維持と併せて、総合医療機関との連携を考えていく必要がある。
- ・「目的を持った学びをしている」は2.74~3.03の間で推移し長期的には緩やかな増加傾向が見られ、全くしていない人の割合は、着実に減少している。大学公開講座 開設数・受講者数の増加とも付合しており、自己実現に向けた学びの機会が県内でも広がっている。
- ・地域別には、大学の多い神戸、阪神北などの都市部に加え、丹波が高い値を示している。丹波については、文化・気性によるものか物理的な要因によるものか明らかではないが、少なくとも神戸・阪神間の都市部が他の地域よりも「学び」の機会に恵まれていることは明らかであり、全県的な底上げと、意欲があっても学べない（「学び」の場が少ない）地域の解消は大きな課題である。



- ・「ボランティアなど社会貢献活動をしている、またはしてみたい」は、全期間平均が3.04と低くはないものの、2004年の3.24をピークに、やや減少傾向にある。
- ・これは、1998年に制度化されたNPO法人数の増加が頭打ちとなっていることとも付合する。社会貢献の文化がある程度社会に浸透したと考えられる一方で、地域の自治や共助、被災地支援、地域活性化など様々な社会課題の解決に県民が主体的に取り組む文化をさらに浸透させていく必要がある。
- ・最近では、クラウドファンディングなどの手法を活用し、社会課題を事業として解決しようとする社会起業家も増えてきている。そうした活動が次々と生まれるよう、県民のリテラシー向上や、制度的な支援の充実にも取り組んでいかなければならない。

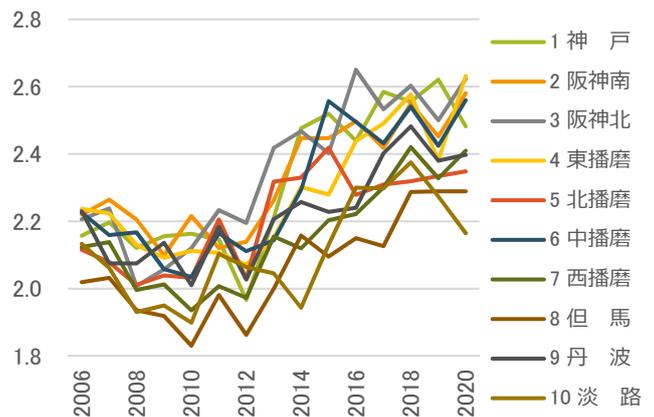


将来像 3 次代を支え挑戦する人を創る

意識 子育て 伸び伸びした地方と利便性の高い都市

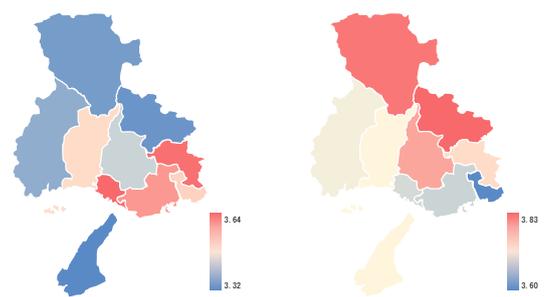
- ・「若者が希望を持てる社会だと思う」は2.2~2.4と非常に低い水準であるが、それでも緩やかな上昇傾向が見られる。近年の雇用情勢の改善との関連性が窺われる。
- ・地域別にみると、地方部が低く、若者の大都市志向や都市部での暮らしや働き方など選択肢の多さが影響しているものと見られる。
- ・「子育てのしやすさ」は都市部が高く、地方部が低い。都市部の方がアクセスの良い場所に子どもを預けられる環境が整っており、送り迎えがしやすいことが起因すると考えられる。また、塾や習い事が充実しており、教育の選択肢が豊富なことも要因として考えられる。
- ・一方で、「心の豊かさを育む教育が行われている」「子どもが伸び伸びと育っている」は地方部が高い。塾や習い事など毎日を忙しく過ごす都市部の子どもに対して、地域のなかでゆとりを持って過ごす子どもの姿を表しているものと考えられる。

若者が希望を持てる社会だと思う



子育てがしやすい

子どもはのびのびと育っている



II しごとと活性社会

社会情勢 日本経済 失われた 20 年 緩やかな景気回復

■ 2001～2005

「緩やかなデフレ」 日銀初の「量的金融緩和」
失業率 5%台に 就職氷河期がつづく
戦後最長も回復実感の乏しい「いざなぎ景気」
厳しい雇用 セーフティネット強化、ワークシェアリングの議論活発化

■ 2006～2010

サブプライムローン問題で「世界同時株安」
歴史的な金融危機「リーマン・ショック」
非正規の派遣切り、正社員のリストラが社会問題化
日経平均株価の 7054 円。バブル崩壊後最安値を更新

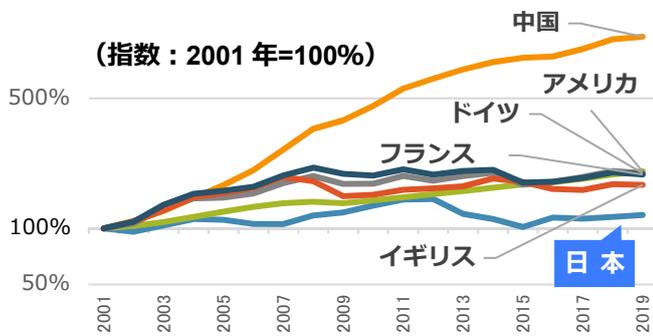
■ 2011～2015

日本の GDP が中国に抜かれ世界 3 位に後退
三本の矢 大胆な金融政策、機動的な財政運営、成長戦略
日経平均 15 年ぶり終値 2 万円台 日銀マイナス金利導入決定

■ 2016～2020

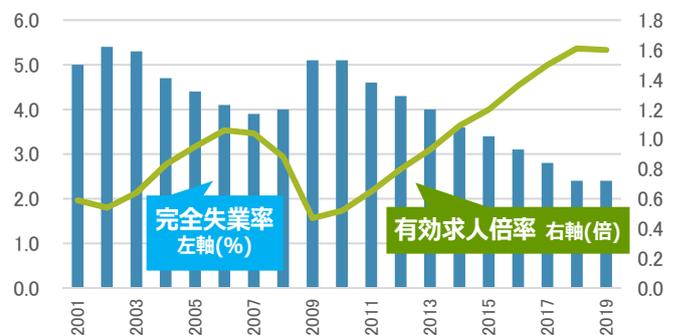
外国人旅行者増加 インバウンド消費が地方に波及
TPP に参加 12 カ国（当時）が署名
違法残業が社会問題に。働き方改革関連法が整備
外国人労働者の受入れを拡大。出入国管理法改正
コロナ禍 経済不安と社会変革の加速

名目 GDP 推移 国際比較



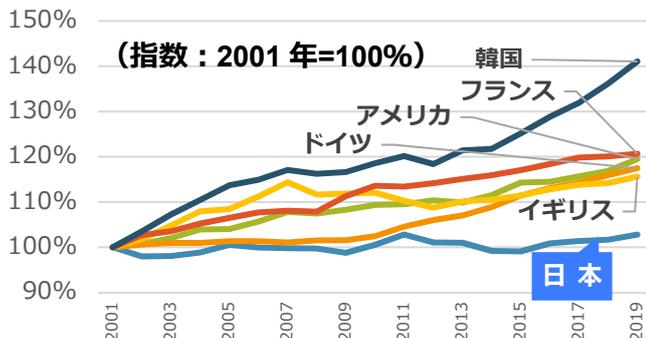
出典: OECD

完全失業率・有効求人倍率 (県)



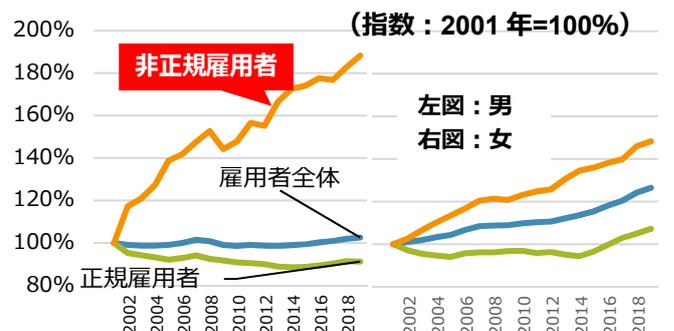
出典: 総務省「労働力調査」、厚生労働省「職業安定業務統計」

平均賃金の推移 国際比較



出典: OECD

正規・非正規雇用者数 推移 (国)



出典: 総務省「労働力調査」01年以前「労働力調査特別調査」

県政 20 年のトピックス

■ 2001～2005

産業集積条例制定、ひょうご認証食品制度開始、全県立高校 1 年生トライやるワーク開始、カーネギーメロン大学日本校開校、S Spring-8 二本目の県ビームライン供用開始、ひょうご・神戸投資サポートセンター開設

■ 2006～2010

兵庫楽農生活センター開園、第 9 回世界華商大会開催、放射光ナノテク研究所開設、全国技能グランプリ兵庫開催、ひょうご仕事と生活センター開設、林内路網 1,000km 整備プラン開始、県産木材供給センター（宍粟市）開設

■ 2011～2015

関西イノベーション戦略特区、あわじ環境未来島特区指定、X 線自由電子レーザ-SACLA 供用開始、スパコン京供用開始、県立工業技術センター「技術交流館」開設、香港経済交流事務所開設、国家戦略特区「関西圏」「養父市」が指定

■ 2016～2020

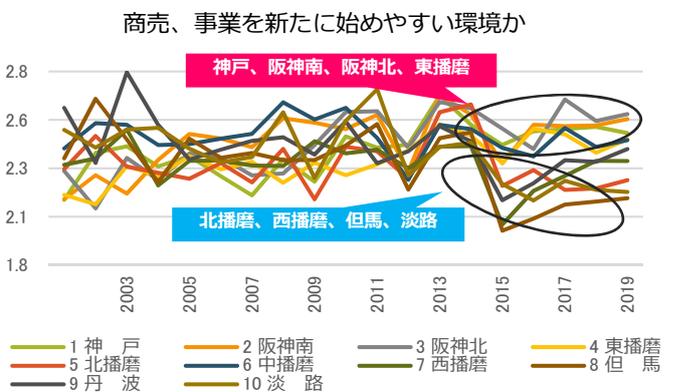
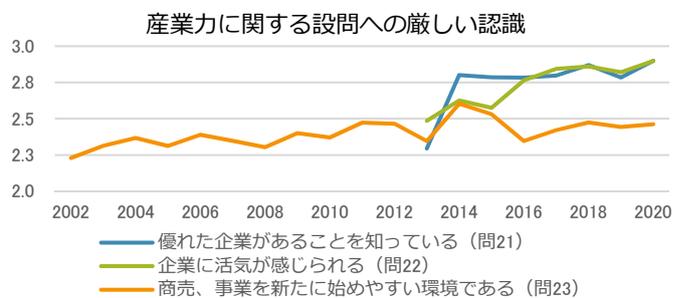
IWC2016「SAKE 部門」兵庫開催、理研科学技術ハブ推進本部関西拠点開設、起業プラザひょうご開設、航空産業非破壊検査トレーニングセンター開設、金属新素材研究センター開設、県立国際商経学部、社会情報科学部を新設

- ・産業・雇用の活力を問う設問は、経済指標の数値以上に県民が厳しい実感を持っていることが示されている一方で、長期的には緩やかな改善を示している。
- ・また、多くの項目において都市部と地方部の格差が表れている。モビリティや通信技術が大きく発展するなかで、地方部でどのような産業を展開していくのか、新たな方向性を見いだしていかなければならない。
- ・起業・創業に対して県民が大きな壁を感じていることも示された。経済活性化だけでなく、自己実現や自分時間の充実の観点からも、起業環境の充実が必要である。

将来像 4 未来を拓く産業の力を高める

意識 事業環境に対する一貫した厳しい認識も緩やかに改善

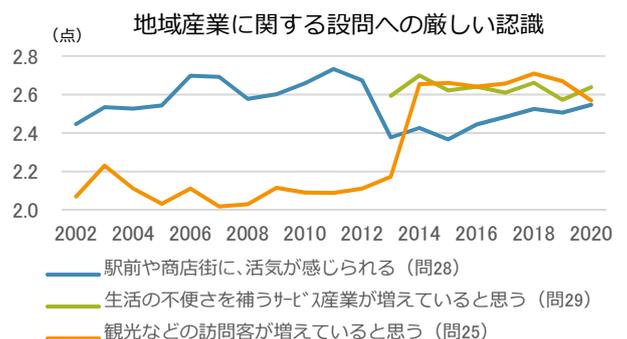
- ・産業力に関する各問の全県の平均点は 2.40～2.75 と全設問の平均 3.18 を下回る。
- ・特に「商売・事業の始めやすさ」について、19年間の最低点が 2.23、最高点でも 2.60 と 2002 年以来、一貫して低い評価で推移している。この設問で厳しい認識が示されていることは、バブル崩壊以降の日本経済の低迷とともに、後述するとおり、起業・創業環境の未成熟が挙げられるのではないかと
- ・同設問を地域別に見ると、大きな差はないものの、長期的な推移を見ると、神戸、阪神南、阪神北、東播磨は改善傾向、北播磨、西播磨、但馬、淡路は悪化傾向にあるなど、都市部と地方部との差が広がっている。



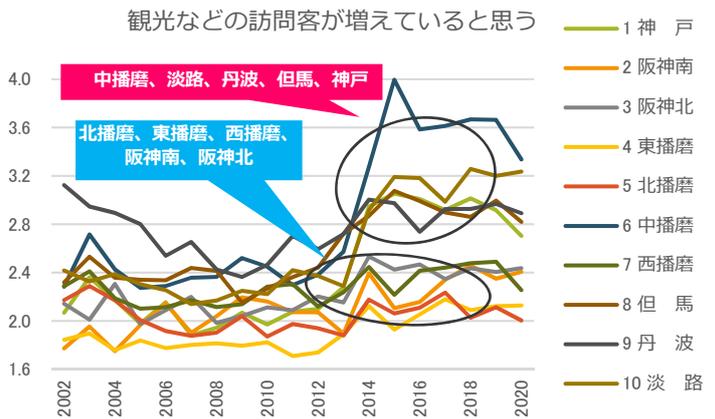
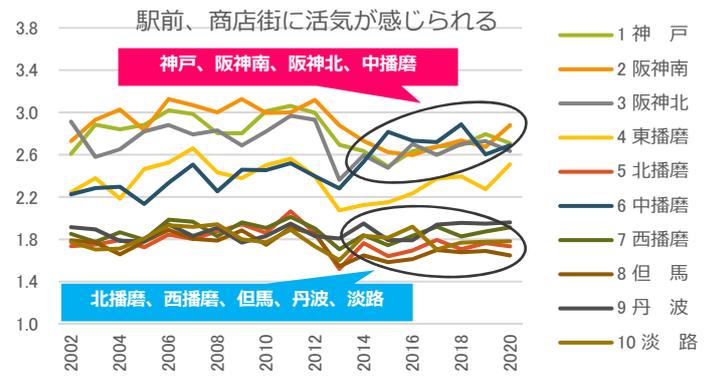
将来像 5 地域とともに持続する産業を育む

意識 とりわけ地方部で厳しい地域経済の活力に関する認識

- ・各問の平均点にばらつきが見られるが、商業や観光に関する問いでは 2.30～2.63 と低い。
- ・「駅前や商店街に活気が感じられる」も、全県の平均点が 2.55 と厳しく、地域別では、神戸、阪神南、阪神北、中播磨と、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路の差は 1 ポイント近く開いており地域間の格差が見て取れる。



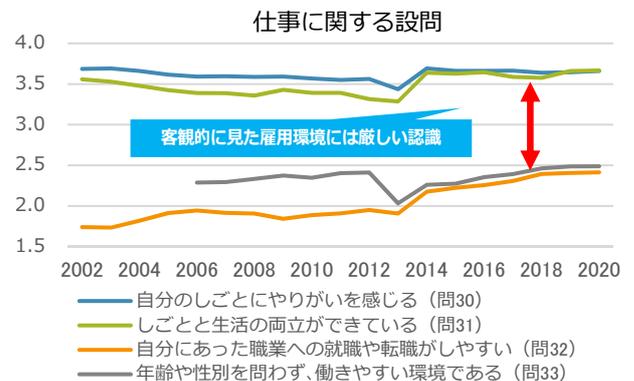
- ・一般論として、地域の活力は、住民の地域への誇りや愛着にもつながる。今後、モビリティや通信技術が大きく発展するなかで、地方部でどのような産業を展開していくのか、新たな方向性を見いだしていかなければならない。
- ・「観光など訪問客が増えていると思う」は、インバウンドや家族でのレジャーなどを対象とした有力な観光資源を持つ中播磨、淡路、丹波、但馬、神戸と、その他の地域での格差が広がっており、直近の調査で、最も得点の高い中播磨の 3.34 と、北播磨、東播磨、西播磨の 2.00~2.26 では、1 ポイント以上の大きな差が開いている。
- ・また、阪神北、阪神南は約 2.4 程度。訪問客の増加という視点では実感が乏しく、地域資源のポテンシャルから見ると、厳しい結果となっている。今後、大阪・関西万博などのビッグイベントも控え、大阪、神戸、淡路などと連携した環境整備等も検討されており、阪神地域の更なる活性化が期待される。



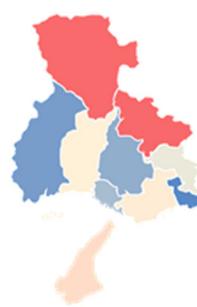
将来像 6 生きがいにあふれたしごとを創る

意識 仕事のやりがいや生活との両立は地方が都市部を上回る

- ・しごとに関する 4 つの問いについて、高低が二極化している。「しごとへのやりがい」「しごとと自分の生活との両立」など、自らの働き方を問う設問では平均点が 3.49~3.62 と比較的高い評価が示されている。また、その差は小さいものの、全体を通して都市部よりも、丹波、但馬などの地方部の方が高得点である。地方部は都市部に比べて、被雇用者（役員除く）の割合が比較的低く、自営業主等の割合が高いことが、やりがいなどの一つの要因ではないかとも考えられる。
- ・一方で、「自分にあった職業への就職や転職がしやすい」「年齢・性別を問わず、働きやすい環境が整っている」は、平均 2.03~2.35 と非常に低く、客観的に見た雇用環境や子育て支援などに厳しい認識が示されているものと考えられる。



自分のしごとに
やりがいを感ずるか

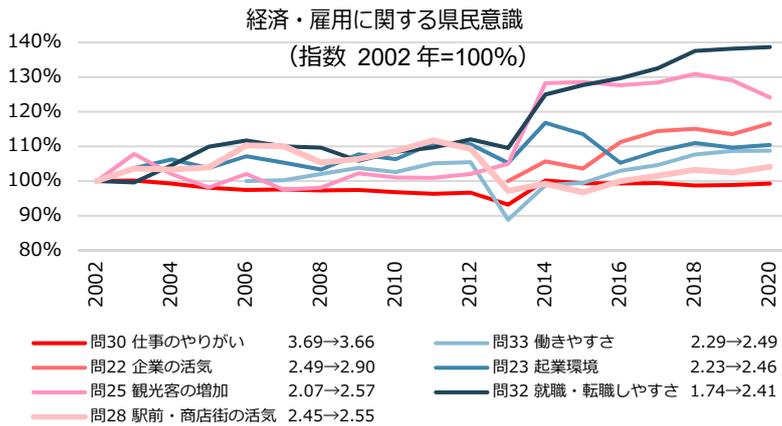


しごとと生活の
両立ができているか



意識 日本経済への厳しい認識の一方 緩やかな改善傾向

・将来像4から6の設問のうち、経済・雇用情勢に関連の深い主な指標を横断的に見ると、概ね緩やかな改善傾向にある。特に「就職・転職のしやすさ」「観光客の増加」は、依然として厳しい水準ながらも、19年間で25~40%伸びている。一方で、「駅前・商店街の活気」は、19年間で2.45から2.55点と、厳しい水準のままほぼ横ばいで推移している。同じ横ばいでも「仕事のやりがい」については、3.69から3.66と比較的高い水準を示している。



出典：Macrotrends、厚労省 一般職業紹介状況

起業・創業を促す環境づくり

課題 自己実現を促す環境づくりの必要性

・将来像4では「事業の始めやすさ」への厳しい認識が示された一方で、将来像6では、働き方とやりがいとの関連性も窺えた。

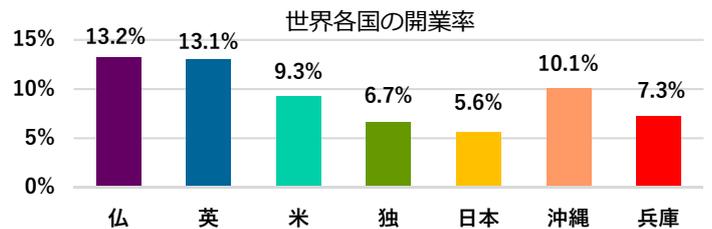
・もちろん、被雇用者であっても、やりがいの高い働き方ができることは言うまでもないが、起業を促進することが、経済活性化だけでなく、県民の自己実現や自分時間の充実にも有効であることは、一般論としても言えることである。世界と比べて水準の低い起業の活性化が、新しいビジョンをつくる上でも重要なテーマになるのではないか。

・国の調査によると、失敗のリスクを取れないことや、起業に関する知識不足といった要因が起業のハードルを上げている。兼業・副業など柔軟な働き方の拡大とともに、学校教育からリカレント教育まで、起業教育の充実、起業文化の醸成が求められる。

就業者に占める自営業主の比率

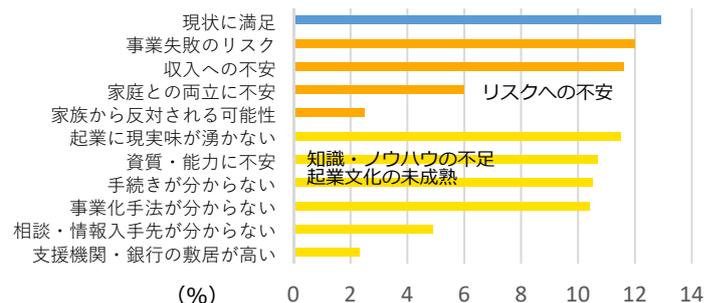
	神戸	阪神南	但馬・丹波	淡路
自営業主	3.2%	3.7%	6.6%	8.4%
被雇用者・役員除く	43.9%	43.0%	39.2%	37.1%

出典：就業構造基本調査（総務省・H29）



出典 中小企業庁「中小企業白書」(2019) 開業率は米国・ドイツを除き、2017年実績

潜在起業希望者が準備に踏み切らない理由



出典 中小企業庁「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」(2013) ※1位~3位の回答を求め1位を集計。その他は表示していない。

Ⅲ 環境優先社会

社会情勢 環境意識の世界的高まりと自然災害の頻発

■ 2001～2005

地球環境保全、自然環境の保護等の重要性の高まり等を受け環境省が再編発足
SARS のアウトブレイク 世界に感染症の脅威
京都議定書 温暖化対策の大きな一歩 世界初の約束
家電リサイクル法がスタート 環境保全や資源循環型経済への意識を高める

■ 2006～2010

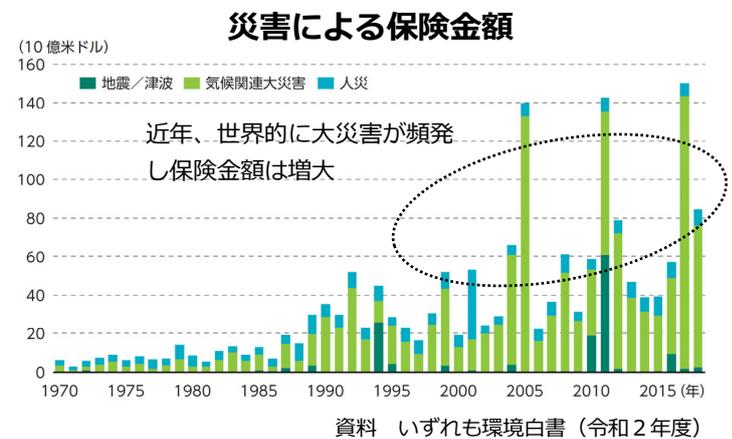
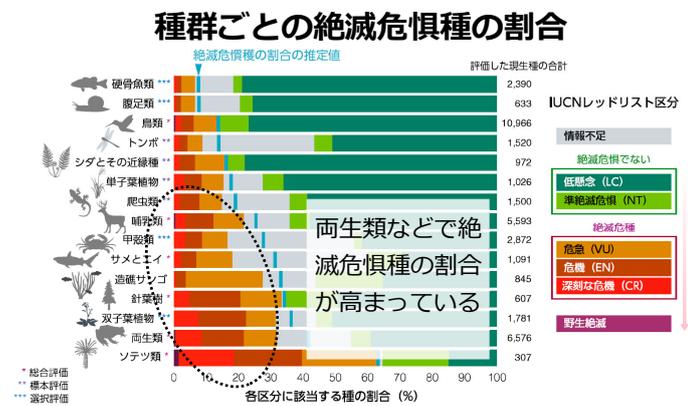
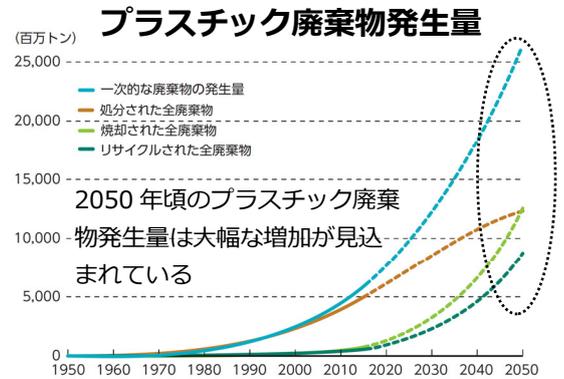
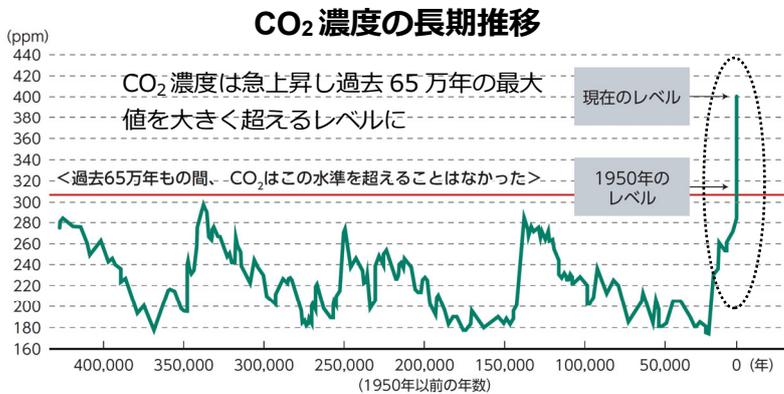
環境が主要テーマとなった洞爺湖サミット開催
COP10 で名古屋議定書 生物多様性への認識を高める

■ 2011～2015

東日本大震災と福島原発事故 環境エネルギーへの関心
SDGs 持続可能な開発目標 環境が重要な項目の一つに
パリ協定 途上国含む全加盟国による史上初の気候変動枠組

■ 2016～2020

特定外来生物による生態系リスク再認識
環境活動家グレタ氏が演説「今すぐ行動を」
国内史上最高温度 41.1 度を観測 豪雨災害が多発 過酷化
コロナ危機 感染症リスク再認識 複合災害への備え
政府 2050 年カーボンニュートラルを宣言



県政 20 年のトピックス

■ 2001～2005

人と防災未来センター開館、産廃不適正処理防止条例制定、大型ディーゼル車運行規制、県広域防災センター開設、国連防災世界会議開催、県民緑税条例制定、E-ディフェンス完成、県住宅再建共済制度スタート、コウノトリの試験放鳥開始

■ 2006～2010

尼崎 21 世紀の森中央緑地開園、兵庫型環境学習・教育の本格開始、森林動物研究センター開設、46 年ぶり自然界でコウノトリの巣立ち、G8 環境大臣会合開催、県立大学緑環境景観マネジメント研究科開設

■ 2011～2015

総合治水条例制定、津波防災インフラ整備 5 箇年計画策定、再エネ 100 万 kW をめざす地球温暖化対策方針策定、全国初のダム堤体法面を活用した神谷ダム太陽光発電所稼働、南海トラフ地震・津波対策アクションプログラム策定

■ 2016～2020

県立森林大学校開校、太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例制定、県立大学減災復興政策研究科開設、六甲山ビジターセンターリニューアルオープン、日本初の「CLT+鉄骨ハイブリッド構造」による県林業会館供用開始

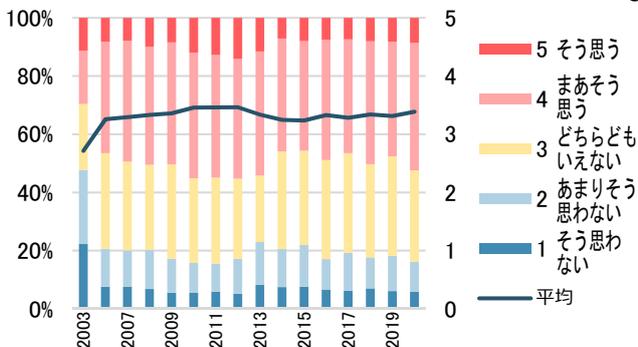
- ・地域の自然環境が守られているかの設問では、低い値ではないものの、緩やかな低下傾向が見られる。森林や海洋、都市や多自然地域など地域によっても課題が異なるなか、自然環境がどう変化しているかを把握し、何が求められるのか見極めていく必要がある。
- ・再生可能エネルギーの利用に関する意識は全県で低い傾向にある。住宅用太陽光発電設備の設置をはじめ、企業や自治体の温暖化対策を資金面で応援するグリーンボンドへの投資など、一人ひとりができる取組を進めていかなければならない。
- ・県民の防災意識は年々上昇している一方で、地域別では地方部に比べて都市部の意識が相対的に低く、全県的な底上げの必要性が見て取れる。

将来像 7 人と自然が共生する地域を創る

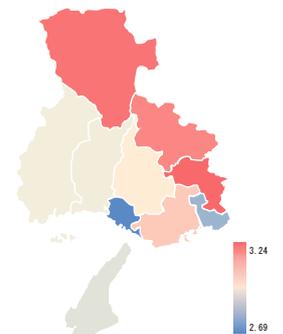
意識 「地域の自然環境は守られている」という認識に地域差

- ・住んでいる市町の「自然環境が守られている」「自然の生き物、動物・植物とふれあう機会がある」「山林や川、海などの自然環境を守るための取組に参加している、またはしてみたい」の平均点は3点台で推移している。
- ・「自然環境が守られている」は、2012年の3.5をピークにその後やや低下し、近年は3点前半で横ばい。
- ・地域別では、丹波、但馬など多自然地域の点数が高く、また2010年以降、阪神北が上位にある。北摂地域の里山保全活動の広がりなどの効果が考えられる。
- ・自然の生き物や動物・植物とふれあう機会を多く持つことが、地域の自然環境を守る意識を育てることにもつながっていることが窺える。
- ・一方、淡路は2013年以降低迷している。放置竹林の増加、野生鳥獣による被害、メガソーラーの設置など、複合的な要因が考えられる。

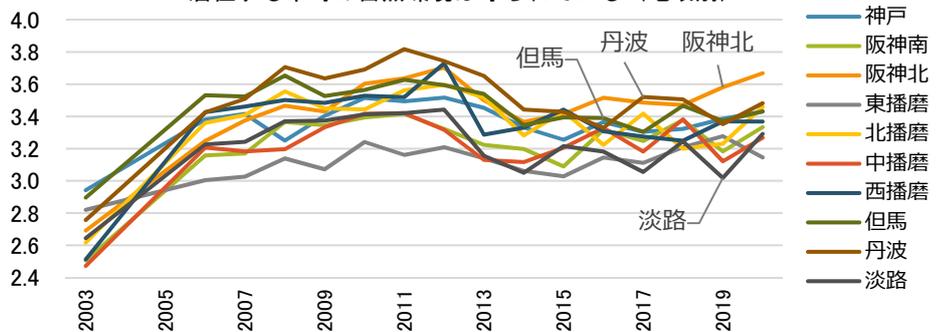
居住する市町の自然環境は守られている



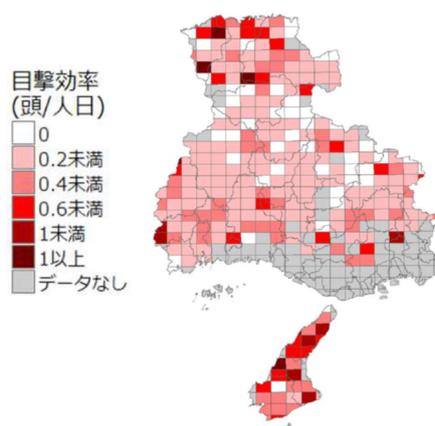
居住の市町では自然の生き物・動物・植物とふれあう機会はあるか (2018~20平均)



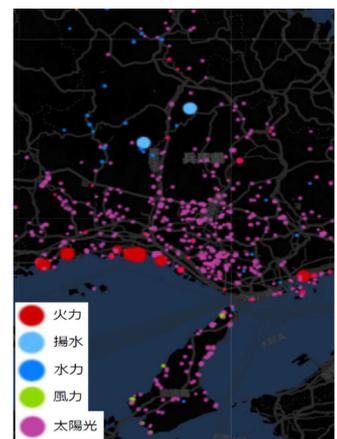
居住する市町の自然環境は守られている (地域別)



イノシシの目撃効率 (H29)



県内の発電所 (50kW以上)

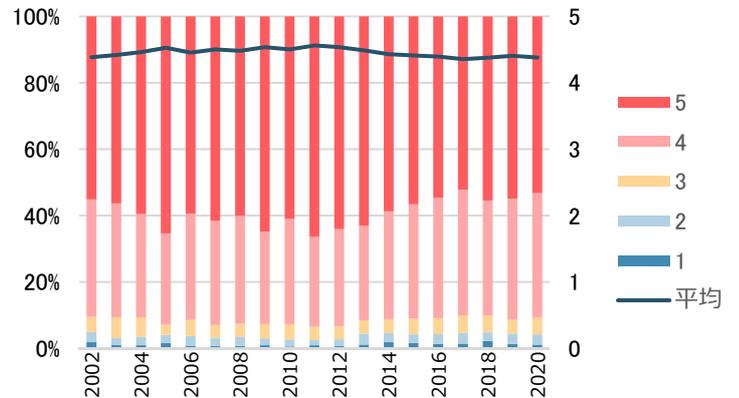


将来像 8 低炭素で資源を生かす先進地をつくる

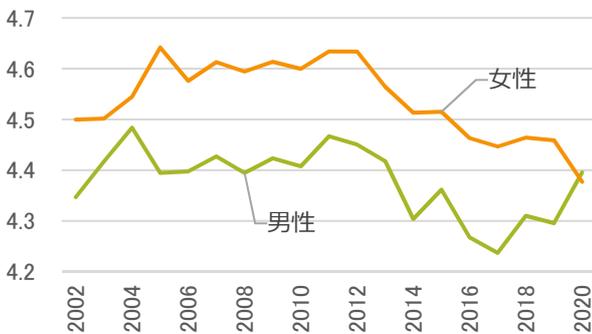
意識 省資源の取組は定着、再エネは一層の拡大が必要

- ・ごみの分別やリサイクル、節電に関する質問は全県平均が4点を上回り、県民の取組の定着が窺える。
- ・男女別、年齢別では、男性、若年層の点数が低く、行動につながる意識啓発に取り組む必要がある。
- ・今後、発生抑制のさらなる徹底や、海洋プラスチック問題など新たな課題への対応が求められる。

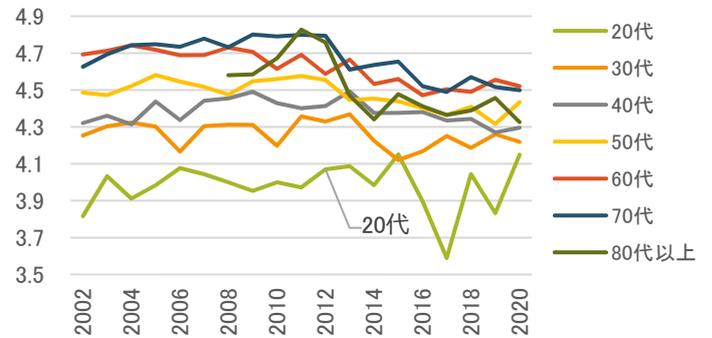
ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる



ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる



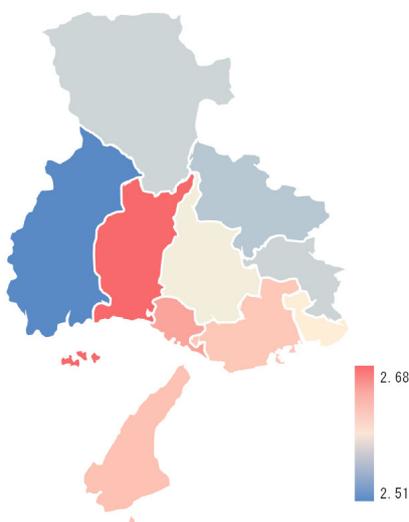
ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる



- ・再生可能エネルギーの利用については、地域差はほとんどなく2点台半ばにとどまっている。住宅への太陽光発電設備の設置促進のほか、燃料電池（エネファーム）や蓄電池の設置、高断熱化や省エネ機器の導入などにより、住宅の省エネ化を図る必要がある。さらには、EV や FCV の普及促進、今後拡大が見込まれるグリーンボンド[※]への投資促進など、地域全体で低炭素社会の構築に向けた取組を進める必要がある。

※企業や自治体が温暖化対策や環境保全に要する資金を調達するために発行する債券

太陽光発電など再生可能エネルギーを利用する取組に参加している



県内の再生可能エネルギーの年間発電量

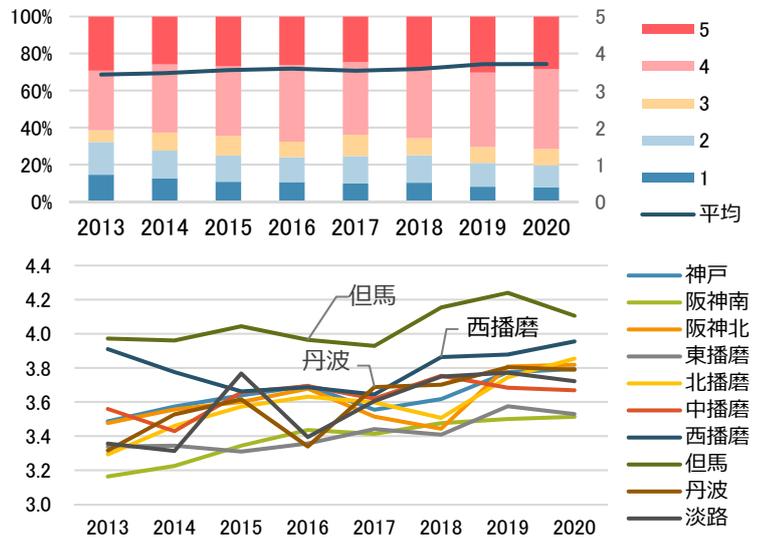
種類	単位:億kWh[各年度の合計に占める割合]									
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
住宅用太陽光発電	1.7 [15%]	2.3 [18%]	2.8 [17%]	3.2 [15%]	4.1 [14%]	4.4 [11%]	4.7 [11%]	5.0 [10%]	5.4 [10%]	
非住宅用太陽光発電	0.4 [3%]	0.8 [6%]	4.0 [24%]	8.6 [40%]	14.1 [48%]	17.0 [41%]	19.2 [44%]	21.8 [43%]	23.4 [43%]	
風力発電	0.8 [7%]	1.0 [8%]	1.0 [6%]	1.0 [4%]	1.0 [3%]	1.0 [2%]	1.0 [2%]	1.0 [2%]	1.0 [2%]	
小水力発電	0.2 [2%]	0.2 [2%]	0.2 [1%]	0.2 [1%]	0.2 [1%]	0.3 [1%]	0.3 [1%]	0.3 [1%]	0.3 [1%]	
大規模水力発電	(データなし)					8.8 [21%]	7.6 [17%]	11.1 [22%]	13.1 [24%]	
バイオマス発電	6.1 [53%]	6.1 [47%]	6.1 [37%]	6.1 [28%]	7.3 [25%]	7.4 [18%]	8.0 [18%]	8.3 [16%]	8.7 [16%]	
ごみ発電	2.3 [20%]	2.5 [19%]	2.5 [15%]	2.6 [12%]	2.6 [9%]	2.9 [7%]	2.9 [7%]	3.0 [6%]	3.0 [5%]	
計	11.4	12.8	16.7	21.7	29.3	41.7	43.6	50.4	54.7	
計(大規模水力除く)						32.9	36.0	39.3	41.6	
(参考)全電力消費量						388	390	377	377	
再エネ比率(大規模水力発電除く)						8%	9%	10%	11%	

出典：兵庫県地球温暖化対策推進計画

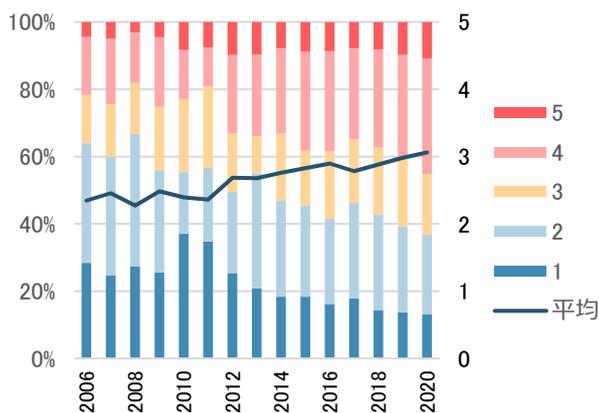
意識 災害に対する「備え」が定着しつつある

- ・「避難場所と避難方法を知っている」では、現在の質問文で調査を開始した 2013 年の 3.43 から直近の 2020 年は 3.72 とほぼ一貫して上昇している。
- ・「災害に備えた話し合いや訓練の参加」でも上昇傾向。地域別では多自然地域の点数が高く、都市部が低い傾向にある。これは、設問 4「頼りになる知り合いが近所にいる」設問 5「地域で異なる世代の人とのつきあいがある」などの傾向とも符合し、地域コミュニティの強さとの関連性が窺える。

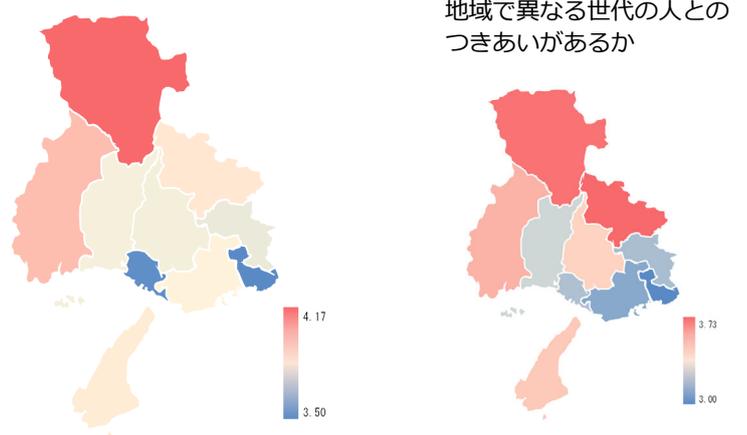
災害時の避難所と避難方法を知っている



地域で災害に備えた話し合いや訓練に参加している



地域で異なる世代の人とのつきあいがあるか



- ・県が 2010 年に実施した防災に関する意識調査では「学校での災害時の児童の避難についての話し合い」「地域内の危険箇所の確認や見回り」「近隣の高齢者や障害者の把握」の全てで但馬が最も高い点数であった。こうした地域の継続した取組が、結果として防災意識の向上に重要であるといえる。

防災に対する取組



出典：第 17 回県民意識調査「災害に対する意識と防災対策への期待について」(H22)

IV 多彩な交流社会

社会情勢 まちづくりの自立と変革、進む内外との交流

■ 2001～2005

- ・地方分権一括法施行 国から自治体への権限委譲など地域の自立に向けた改革がスタート
- ・画一・標準から個性・多様性を重視したまちづくりへ 景観法施行 景観計画など制度整う

■ 2006～2010

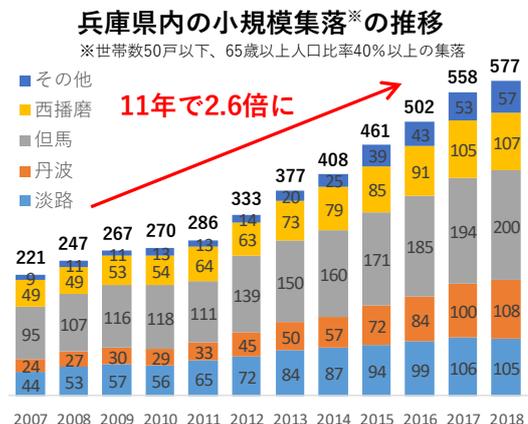
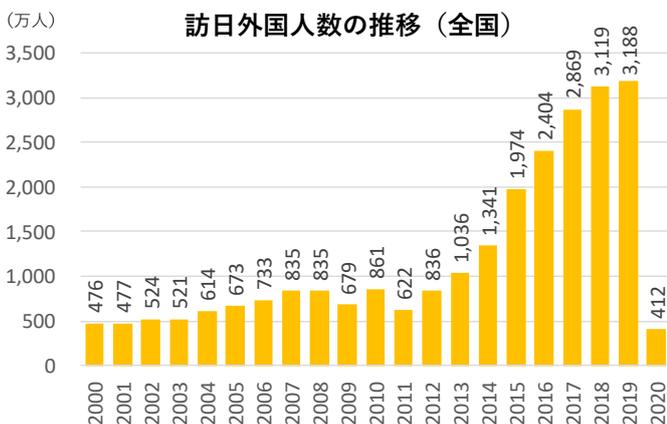
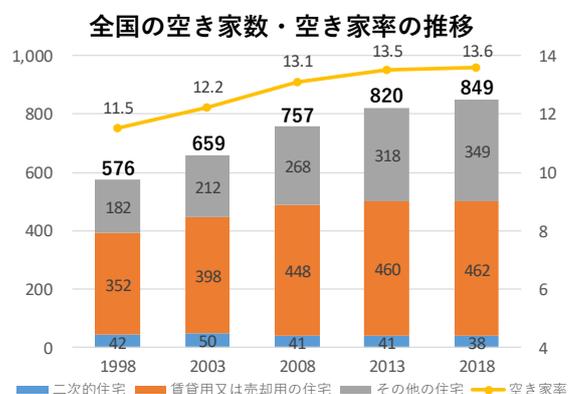
- ・まちづくり3法改正、コンパクトシティ政策へ
- ・住生活基本法制定 住宅の量から質への転換
- ・中部国際空港(2005年)に続き、関西国際空港第2滑走路の供用など「空の時代」へ
- ・平成の大合併 自治体数が3,200から1,700へ

■ 2011～2015

- ・広域的な自治連携制度「連携中枢都市圏」開始
- ・リニア整備計画決定 広域交通基盤の検討進む
- ・インフラ長寿命化など社会資本の老朽化へ本腰
- ・地域資源の価値を高める日本遺産制度創設

■ 2016～2020

- ・インバウンド3千万人超 外国人労働者も増加
- ・空き家問題、オールドニュータウン化も進行
- ・都市の若者の1/4が地方移住に関心 新しい兆し
- ・関西三空港の一体的運営 全国・兵庫の高速道路網のミッシングリンクも順次解消が進む



県政 20年のトピックス

■ 2001～2005

阪神高速北神戸線全線開通、同神戸山手線神戸長田 IC-白川 JCT 供用開始、明舞団地再生計画策定、鳥取豊岡宮津自動車道香住道路供用開始、JR 加古川駅付近連続立体交差事業完了、北近畿豊岡自動車道春日 IC～氷上 IC 供用開始

■ 2006～2010

神戸空港開港、北近畿豊岡自動車道水上 IC～和田山 JCT 供用開始、小規模集落元気作戦開始、JR 姫路駅付近連続交差事業完了、神戸港が国際コンテナ戦略港湾に選定、山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟認定

■ 2011～2015

あわじ環境未来島地域活性化総合特区指定、鳥取自動車道全線開通、旧余部鉄橋を活用した展望施設「空の駅」開設、姫路城が平成の大修理を終えグランドオープン、ミラノ国際博覧会で五国の魅力発信、空き家総合相談窓口を開設

■ 2016～2020

日本遺産認定相次ぐ(全国104件中9件)、インド・グジャラート州との相互協力に関する覚書締結、伊丹-但馬路線に新型機就航、新名神高速道路路西 IC～神戸 JCT 供用開始、県・神戸市共同事業による新長田合同庁舎供用開始

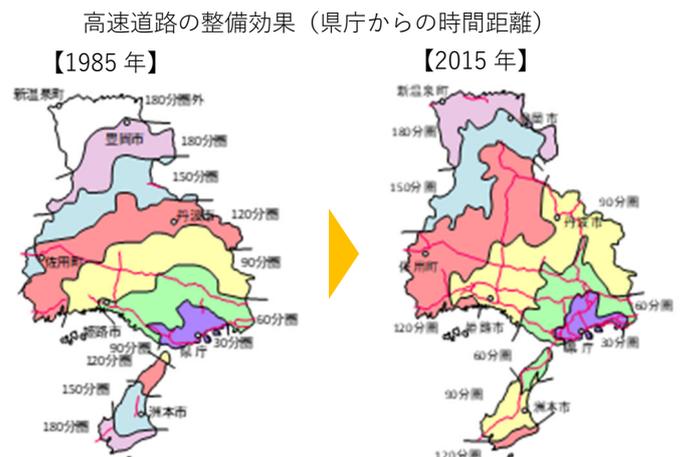
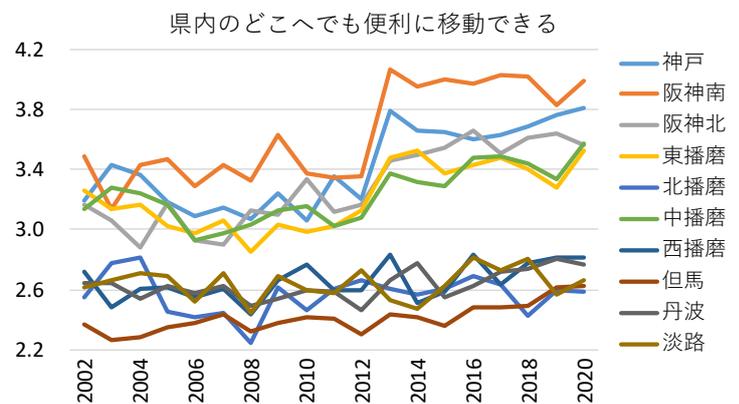
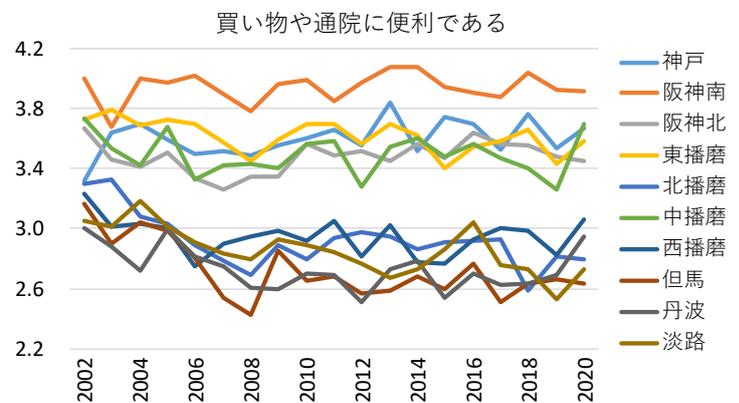
県民意識の総括 都市と地方の格差解消に課題

- ・生活利便性に対する評価は二分されている。地方部では買い物や公共交通の利便性が低下傾向にあり、依然として都市部との格差は縮まっていない。
- ・地域への愛着度は県全体に総じて高い。地域活動への参加は地方部で旺盛な一方、都市部では低調であり、地域との関わりのきっかけをつかめていない現状が垣間見える。
- ・コロナ禍前までは外国人と接する機会が増えていた。一方、海外に行ってみたいと考える県民は増えていない。20代、30代の海外志向の低下が顕著で、若者の内向き志向が窺われる。
- ・外国人の住みやすさでは地方部の評価が低い。地方部でも長期的には外国人県民が増加していくと見込まれる。地方部における外国人県民の暮らしやすさに一層注意を向ける必要がある。

将来像 10 地域の交流・持続を支える基盤を整える

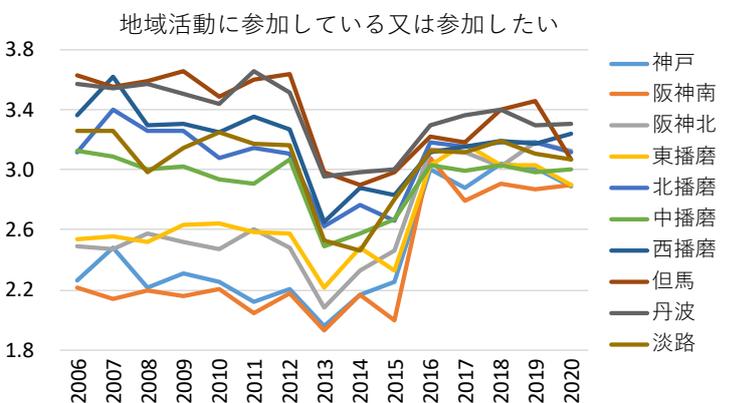
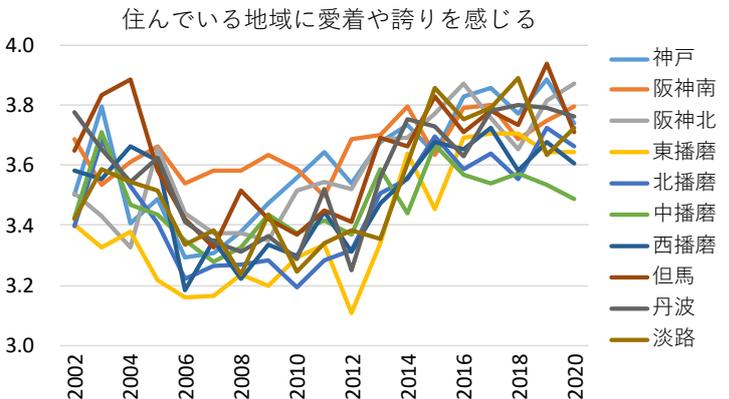
意識 地方の利便性改善の一方、都市との格差は変化なし

- ・兵庫県内の基本的な生活利便性に対する評価は県内で二分されており、都市部（神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨）で高く、地方部（北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路）で低い。
- ・地方部では「買い物・通院の利便性」や「公共交通の利便性」に対する低い評価が続いている。人口減少により維持が難しくなった店舗やバス路線の縮小・廃止などで生活利便性がさらに低下し、それが一層の人口減少の要因になる悪循環が起きている様子を読み取れる。
- ・「どこへでも便利に移動できる」という観点では地方部で改善傾向が見られる。特に但馬地域の改善が顕著である。県北部を中心に高速道路の整備を進めてきた成果が表れており、社会基盤整備は引き続き地方の利便性向上に寄与していくだろう。ただ、それでも、都市部と地方部の評価が大きく高低に二分される状況に変わりはない。
- ・「街並みのきれいさ」の評価は、ほぼ変化がない。地域別には、神戸、阪神南、阪神北で高く、東播磨、北播磨、淡路で低い傾向がある。県民緑税を活用した街並み緑化など現在進めている景観形成の取組と、面的に「きれい」と県民が感じ取るために効果的な取組の間にギャップがあることが窺われる。



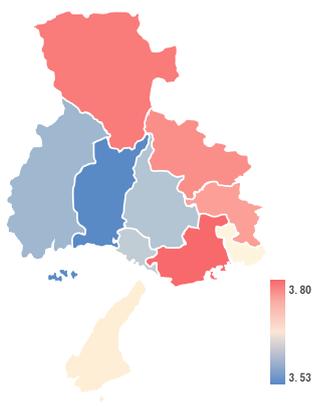
意識 地域への関わり方は地方で密、都市では疎

- ・県民の地域への愛着度は総じて高く（2020年 3.72）、また近年上昇傾向にある。同様に地域への関心度も高い水準を保っており（2020年 3.81）、地元意識の強さが伝わってくる。
- ・興味深いのは、地域への愛着度、関心度の地域差である。いずれも播磨地域が低い。姫路という歴史ある拠点都市を有しながら、自らの地域に愛着や誇りを持ってないのはなぜか。神戸、大阪、あるいは東京といった大都市に目が向くためであろうか。
- ・地域への愛着を育む元になる「自慢できる地域の宝」があるとするとする県民の割合は、世界遺産「姫路城」を擁する中播磨が突出して高い。ただ、東、北、西播磨は、逆にこの割合が低く、姫路城が播磨の共有の財産として認知されていないことを窺わせる。また、中播磨は「自慢できる地域の宝」がある県民の割合の高さと、地域への愛着度、関心度の低さとのギャップが目を引く。
- ・地域活動に参加している住民の割合は地方部で高く、都市部で低い。地方部ほど地縁の結びつきが残っていることの表れであろう。投票率の高低と似た傾向を示している点も興味深い。
- ・一方で、地域活動への参加「意向」を見ると、地方部が高く、都市部が低い傾向はあるものの、実際の参加状況ほどの差は見られない。都市部では、活動への参加意向を持つ住民が一定存在するにもかかわらず、どうやって地域に関われればよいのかわからず、その手前で立ち止まっている住民が多いことが窺われる。

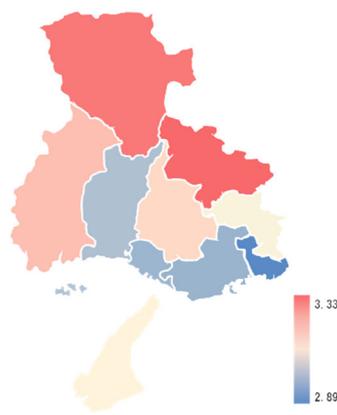


本設問は元々「地域活動に参加していますか」という設問文だったが、2016年から「地域活動に参加していますか、または参加したいと思いますか」と設問文を変更しており、この影響で2016年から結果が上振れしている。結果として、都市部では、地域活動に参加していないが、参加「意向」はある住民が多いことが読み取れる。

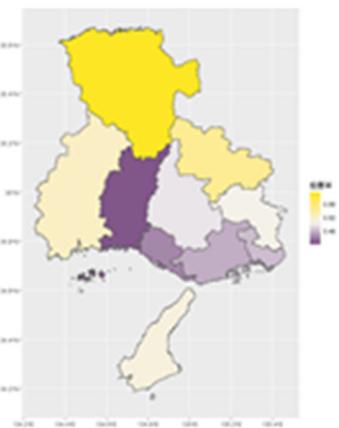
住んでいる地域に愛着や誇りを感じますか（2020年）



地域活動に参加しているか又は参加したいか（2020年）



投票率（2019年参議院議員選挙）



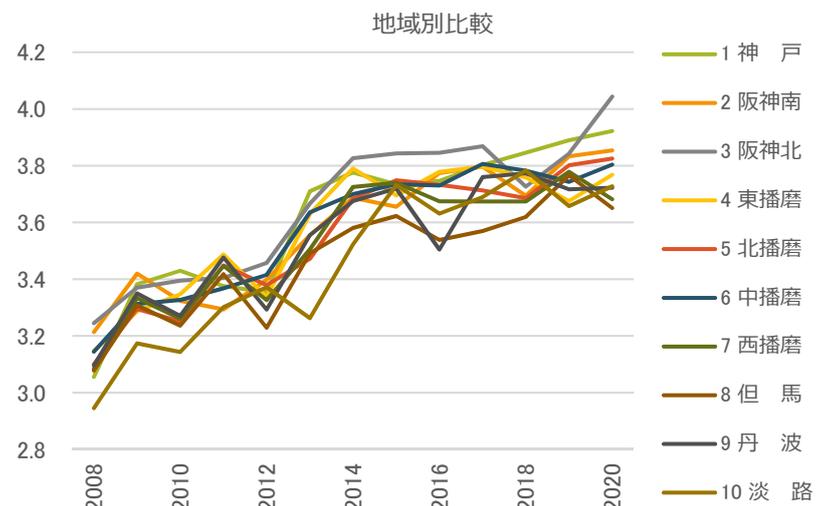
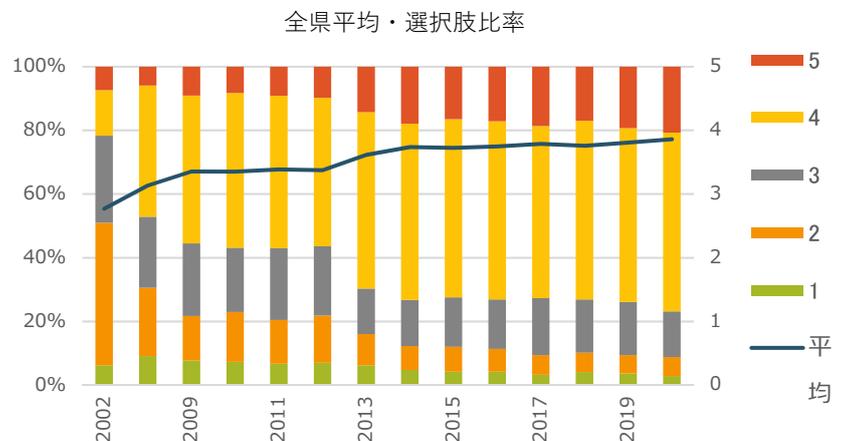
県民意識の総括 厳しい経済認識 長期的には着実に改善

- ・県民意識調査の全体を通して見ると、現在の生活や住んでいる地域など、身近な暮らしに関する問いにはポジティブな回答が、社会情勢などを連想させる将来の暮らしへの問いにはネガティブな回答が多く、真逆の傾向が表れた。
- ・一般的には、長期の景気低迷など社会環境のマイナス面が強調されがちであるが、今の暮らしそのものや、より根源的な内心の部分での生活満足度という意味では、一定の水準が確保されていると言えるのではないか。
- ・とりわけ、「住んでいる地域に住み続けたい」には、約4割の県民が最高点をつけるなど特徴的な結果が表れた。人口減少の格差に比べて地域間の差も小さく、内心で住み続けたいという思いと、実際に住み続けるかどうかの間に大きなギャップあることが窺える。
- ・一方で、客観的に自分の将来を考えたときに、大きな不安を抱えていることが分かる。仕事、結婚、子育て・教育、介護、セカンドライフなどのライフステージに対応して、安心を持てるビジョンを示すことの重要性を示唆しているのではないか。

生活の満足度 「全体として、今の生活に満足している」

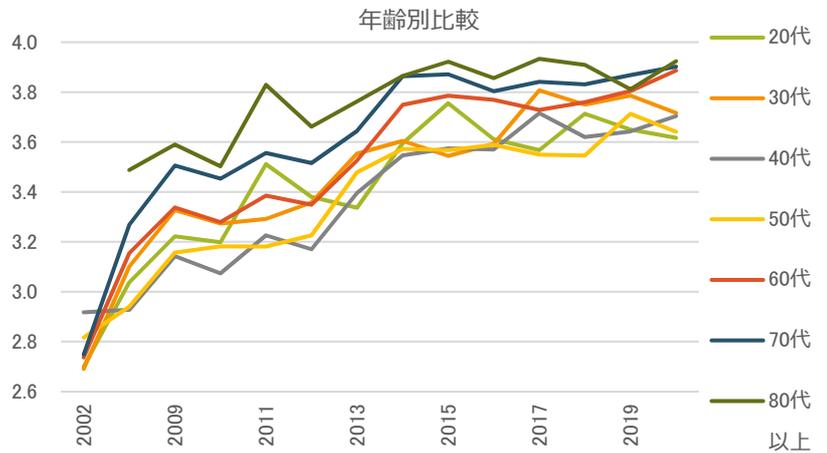
意識 この20年で生活満足度は緩やかに向上

- ・「全体として、今の生活に満足している」は、全県では概ね3以上、直近では3.86と、比較的高い値を保って推移している。
- ・選択肢別のウエイトを見ると、直近の調査で「5満足」が21%、「4まあ満足」が56%とポジティブな回答で約80%を占めており、社会への何らかの不満や不安などを抱えながらも、個人個人の日々の生活といった視点では、多くの県民が一定の満足感を得ていることが窺える。
- ・経年では、「4まあ満足」との回答が大きく増加するなどにより、緩やかではあるものの、長期的に見て生活満足度は上昇していると言える。
- ・地域別では、上下位の差は毎年約0.2～0.4ポイント程度。順位の変動はあるものの、傾向としては神戸・阪神南・阪神北などの都市部の方が、但馬、丹



波、淡路などの地方部よりも高く、直近で見るとやや格差が広がっている。

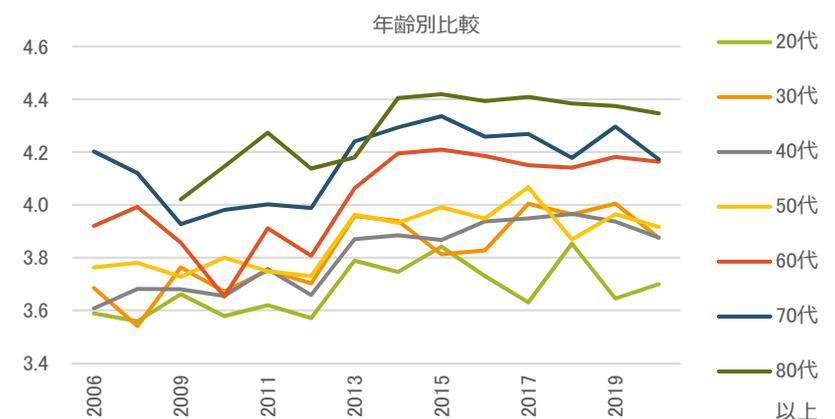
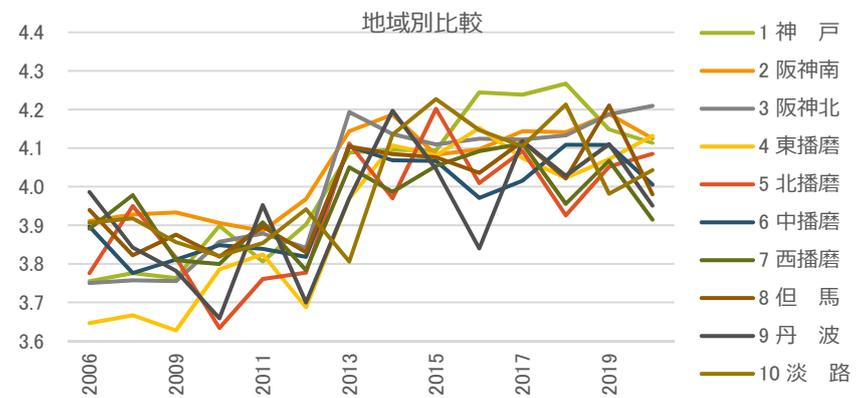
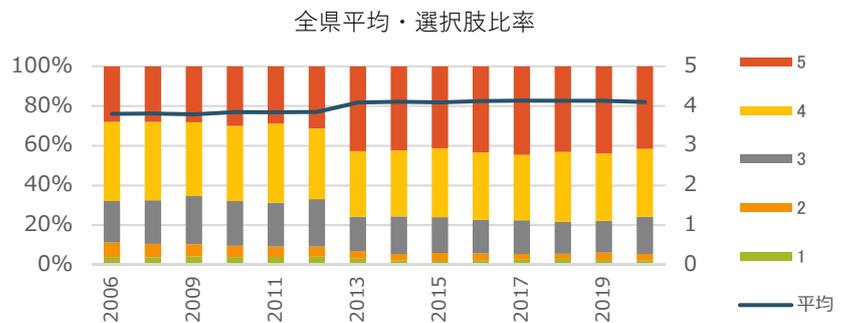
- ・世代別では上下位の差は毎年 0.2 から 0.6 ポイント程度。60 代以上が安定して上位を占めている。50 代以下は年によって変動しているが、仕事や家庭を支える立場の方々が多い 40 代、50 代が比較的低位で推移している。



地域の満足度 「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」

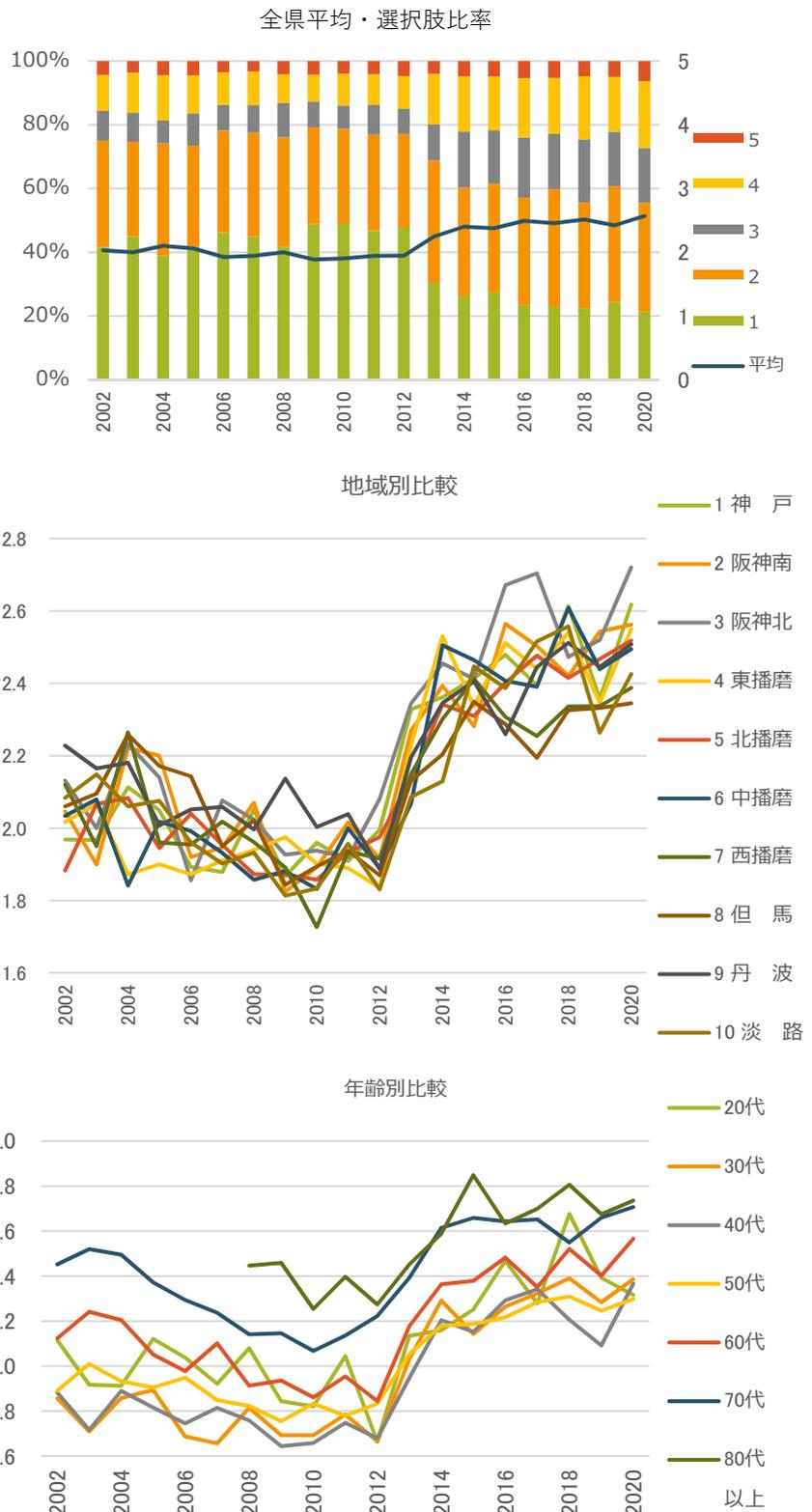
意識 人口の減る地方部でも強い 「住み続けたい」 地域への愛着

- ・全県では 3.8~4.1 と高い値で推移している。選択肢のウェイトを見ても「5 住み続けたい」「4 まあ住み続けたい」を合わせて 70~80%程度を占めている。また、「5 住み続けたい」だけを見ても約 40%を占め、上述の「生活満足度」を問う設問よりも更にポジティブな回答が多い。
- ・地域別では、上下位の差は 0.2~0.3 ポイント程度。神戸、阪神南、阪神北が比較的高く、但馬、丹波、淡路が比較的低い傾向が見られるものの、毎年の順位変動も激しく、地方部での人口減少の程度に比べて、都市部と地方部でそれほど大きな差は生まれていないと言えるのではないか。
- ・年代別に見ると上下位の差は 0.4~0.8 ポイントと比較的大きい。60 代以上が直近で 4.0 以上と特に高い値を示しているのに対して、20 代は 3.7 と相対的に低い値に止まる。高齢世代が住み慣れた地域で住み続けたいと思う一方で、若い年代の大都市志向や、利便性の高い地域への移転志向が影響しているものと考えられる。



意識 身近な満足と共存する将来への閉塞感

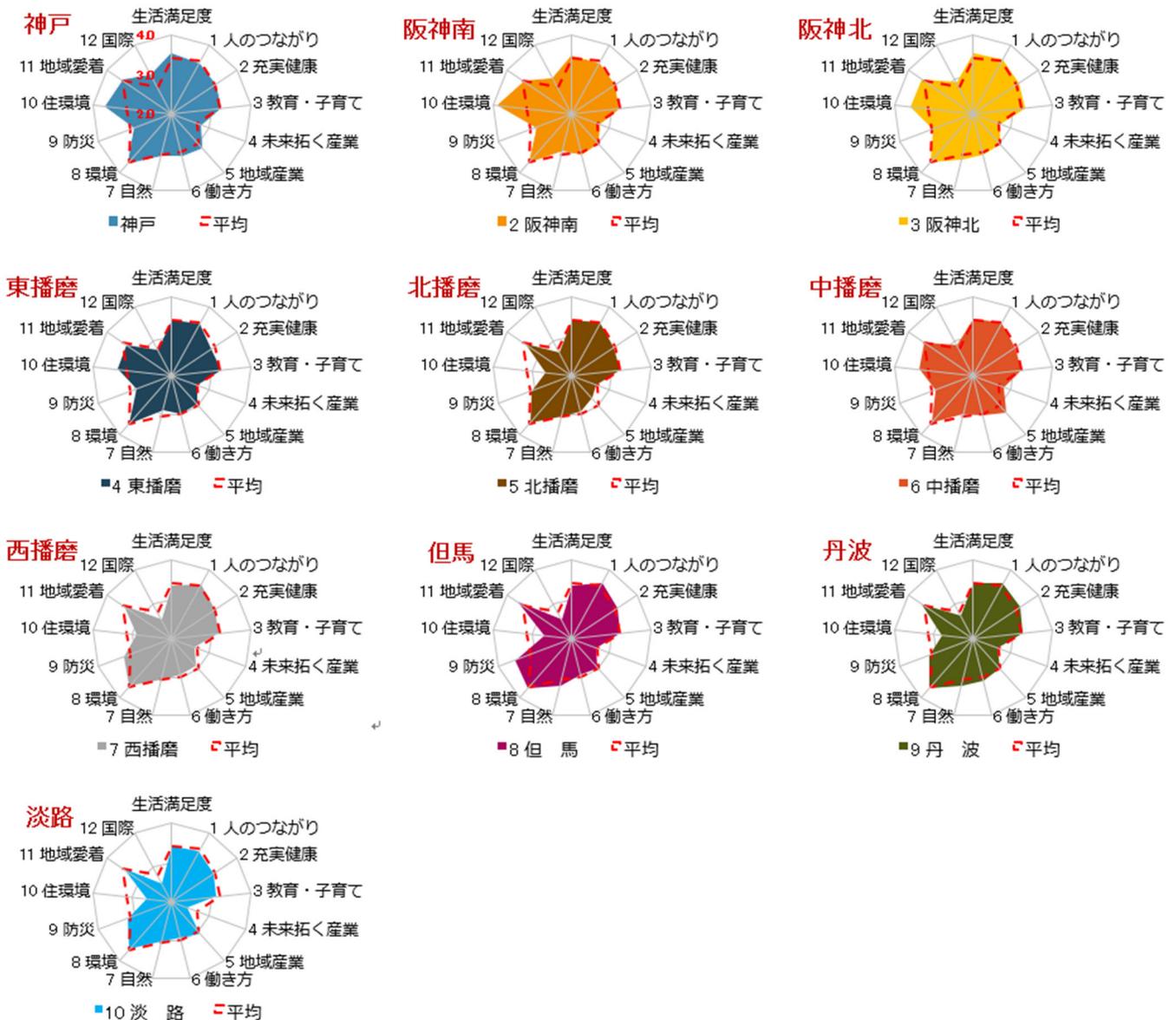
- ・全県では、雇用環境の改善等により緩やかな上昇傾向が見られるものの、1.9～2.6 点程度で推移しており、他の総合的設問とは対照的に低い値が示されている。
- ・回答のウエイトで見ると、当初約 40% を占めていた「1 不安を感じる」が 20%程度に減少。逆に「4 あまり不安を感じない」が、約 10%から 20%程度まで増加しており、大きな不安の時期は底を打ったように見受けられるが、直近の調査でも、「1 不安を感じる」と「2 やや不安を感じる」のネガティブな回答が 55%を占めており、これまでの経済低迷だけでなく、所得格差の拡大、雇用制度の変革や社会保障制度への不安など、社会への閉塞感や中長期的な視点で自らの人生を見通せないという意識が表れているものと考えられる。
- ・地域別には、上下位の差は約 0.2～0.5 ポイント程度。順位の変動が激しく、一概には言えないが、神戸、阪神南、阪神北などの都市部が上位を占め、西播磨、但馬、淡路などの地方部が下位を占める傾向にある。
- ・年代別では、上下位の差は約 0.4～0.8 ポイントと開きがあるが、70 代以上を除けば、その差は大きくない。強いて言えば、30 代、40 代、50 代が低く、子育てや介護、老後の生活など、現実的な生活への不安が窺える。



傾向 地域格差の見られる住環境・産業 小さい生活満足度

- ・地域差が大きな将来像が「10 住環境」「12 国際」。とりわけ生活利便性を含む「住環境」の分野は、神戸、阪神南、阪神北など都市部と、北播磨、但馬、丹波、淡路など地方部の格差が、他の将来像と比較して突出している。また「4 未来を拓く産業」「5 地域産業」にもやや地域差が見られる。
- ・一方、総合的な「生活満足度」での地域差は小さい。利便性や産業活力への意識と全体の満足度の間に強い関連が見られなかったことは意外な結果であった。おそらく、単に生活満足度を問われた時には、身近な世界での暮らしの質や充実感をイメージするため、一定以上の生活の質が確保された日本では差が生じにくいのであろう。
- ・なお、人口移動が生活利便性や産業・雇用に連動して生じることを考えると、本調査における「10 住環境」や「4 未来を拓く産業」といった分野は、地域に対する総合的な満足度を表していると捉えることもできる。そうした分野に相当程度の地域差があることを踏まえて、地域づくりの新たな方向性を考えていく必要がある。

※直近3年間を平均。目盛りは中心が2点、外周が4点。点線は全県の平均値



1 都市・地方の暮らし方の再構築（モビリティ・通信技術の発展の先にある暮らし方）

① 住環境・利便性の格差 × 住み続けたい地域・地域への愛着

- ◆ 都市への人口移動は進んでいるか。まちや地域（都市中心部、ニュータウン、地方都市、多自然地域）はどのような姿になっているか、どうあるべきか。
- ◆ 社会インフラ（道路・鉄道・港湾・空港等の産業・交通基盤、上下水道、公園・学校等の生活基盤など）はどうか。機能の維持・向上には何が必要か。

② 都市部のコミュニティ機能の低下 × 地方の子育て環境への不安

- ◆ コミュニティや家族の形はどうか。機能・役割はどのように変化するか。

2 AI時代の稼ぎ方と人材育成の展望

① 産業・雇用環境への厳しい認識 × 起業・創業へのハードル

- ◆ 産業構造はどうか。その中で県及び各地域は、何を強みとし、何で稼いでいるか。AI等のテクノロジーの進歩は、暮らしや社会、産業をどうかえているか。

② 若者の希望を描く × 「学び」への意識と環境格差

- ◆ どんな人材が必要とされているか。そうした人材が育つためにどんな学びが必要か。
- ◆ 学校はどうか。高度な知識と心の豊かさをどう両立して育てていくのか。

③ 海外志向の低下 × 地域国際化の必要性

- ◆ 地域や国境を越えた人の交流はどうか。その中で地域は、何を強みとして人を引き付けるのか。世界の活力の取り込みや世界への貢献のために何が求められるか。

3 人生100年時代のライフコースの提示

① 将来の不透明感（働き方、社会保障、格差、技術革新）→ 安心を持てるビジョンの必要性

- ◆ 人生100年時代の個人のライフコースはどうか。人の幸せや生き方など価値観がいかに変わっていくか。
- ◆ 働き方（働く人と企業の関係、働くスタイル等）は、どのように変わっていくのか。働き方の変化は、社会や地域にどんな影響を与えているのか。

4 巨大災害や気候変動への対応

① 防災意識の高まり × 住み続けたい地域

- ◆ 南海トラフ地震にどう備えるか。南海トラフ後の兵庫はどうか、どうなるべきか。

② まばらな環境保全意識 × 進まない再エネ導入

- ◆ 気候変動は、人の暮らしや地域、産業にどんな影響をもたらしているか。地球温暖化を防ぐために何が必要か。エネルギーはどうか。
- ◆ 人と自然の共生に向けて何が求められるか。森林・海洋の環境はどうか。